

**奈良市の環境に関する
市民アンケート調査及び事業所アンケート調査
結果報告書**

平成 23 年3月

奈良市

目 次

I	調査の概要.....	1
II	市民アンケート調査結果.....	2
III	事業所アンケート調査結果.....	29

I 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 対象者及び抽出方法

- 市民アンケート：奈良市在住の18歳以上の男女2,000人を住民基本台帳から無作為抽出
- 事業所アンケート：奈良市内に所在する事業所500社を無作為抽出

(2) 調査方法

- 郵送配布・郵送回収
- 奈良市ホームページでのWebアンケート（市民アンケートのみ）

(3) 調査期間

- 郵送調査
平成23年1月12日～平成23年1月28日
- Webアンケート
平成23年1月12日～平成23年2月13日

2. 回収状況

調査対象者	配布数	有効回収数	有効回収率
市民	2,000	962*	48.1%
事業所	500	222	44.4%

※Webアンケートの回答数39件を含みます。

3. データの見方

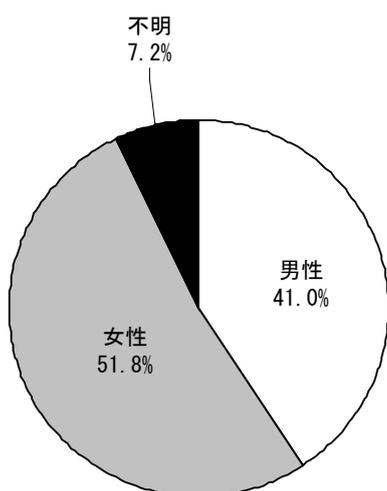
- ・回答結果は少数第2位を四捨五入し、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（SA）（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（MA）（複数の選択肢から1つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・「NA」は、数量回答をあらわしています。
- ・図表中において、「不明」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- ・図表中の「N」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。

II 市民アンケート調査結果

問1 回答者の属性・区分

(1) 性別

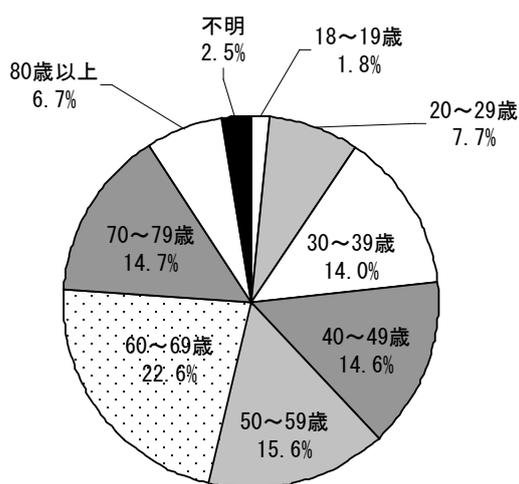
(SA) N = 962



男女別のアンケート回収数は、男性41.0% (394件)、女性499件 (51.8%) です。

(2) 年齢

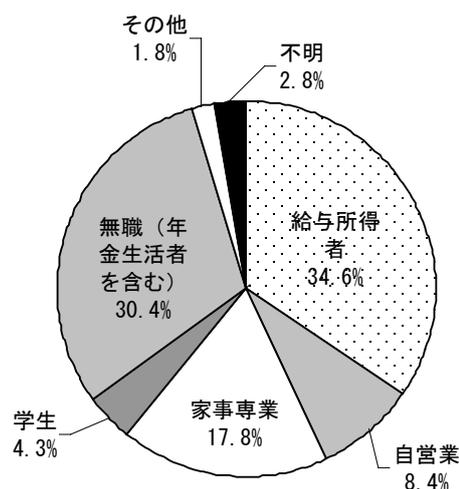
(SA) N = 962



年齢別では、60歳代の割合が最も高く22.6%、次いで50歳代15.6%、70歳代14.7%、40歳代14.6%、30歳代14.0%の順です。20歳代7.7%、80歳以上6.7%、最も低いのは10歳代 (18歳以上) で1.8%です。

(3) 職業

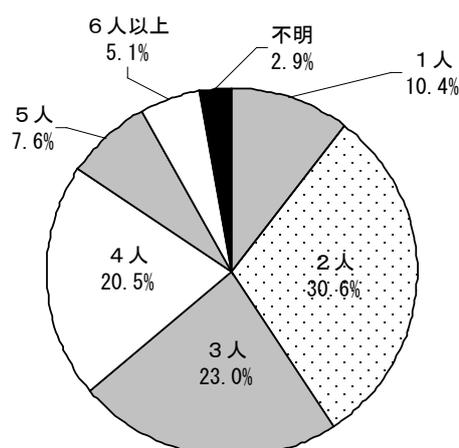
(SA) N = 962



職業は、給与所得者 (34.6%) と無職 (年金生活者含む) (30.4%) の割合が高く、次いで家事専業17.8%、学生4.3%と続いています。

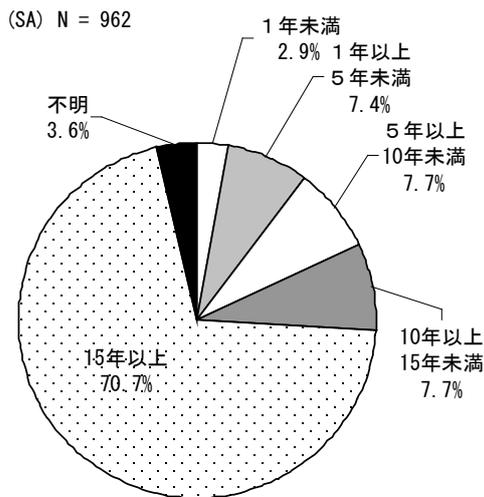
(4) 同居の家族の人数

(SA) N = 962



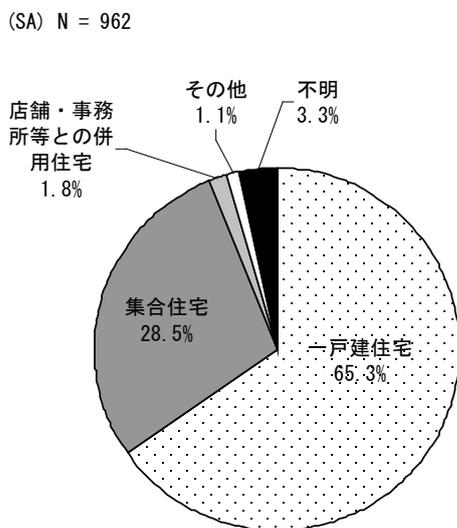
同居の家族数は、本人を含めて2人 (30.6%) が最も高く、次いで3人 (23.0%)、4人 (20.5%)、1人 (10.4%) と続いています。

(5) 奈良市での居住年数



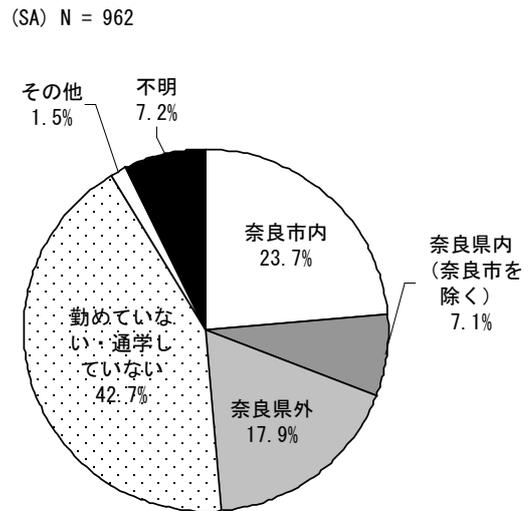
奈良市での居住年数は、15年以上が7割(70.7%)を超えており、長く居住している人の割合が高くなっています。

(6) お住まいの形態



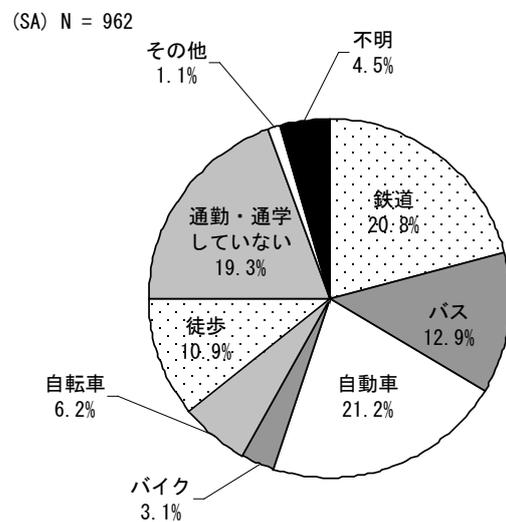
住まいの形態は、一戸建住宅が65.3%で最も高く、次いで集合住宅の28.5%となっています。

(7) 通勤・通学先



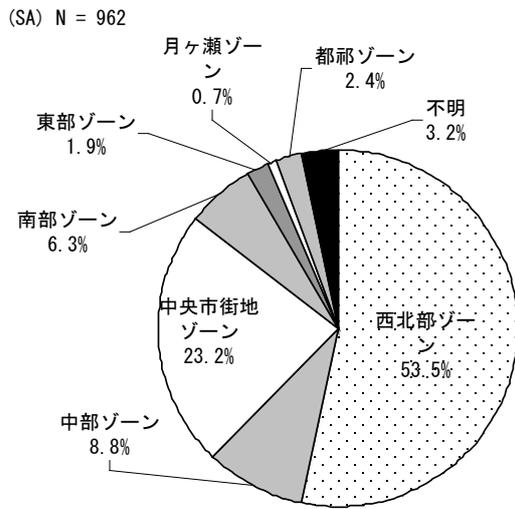
通勤・通学先は、「通勤や通学をしていない」が42.7%を占めているが、それ以外は奈良市内23.7%、県外17.9%、県内(奈良市を除く)7.1%の順となっています。

(8) 通勤・通学、その他主な移動手段



通勤・通学、その他主な移動手段は、自動車21.2%、鉄道20.8%、バス12.9%、徒歩10.9%、自転車6.2%、バイク3.1%の順になっています。

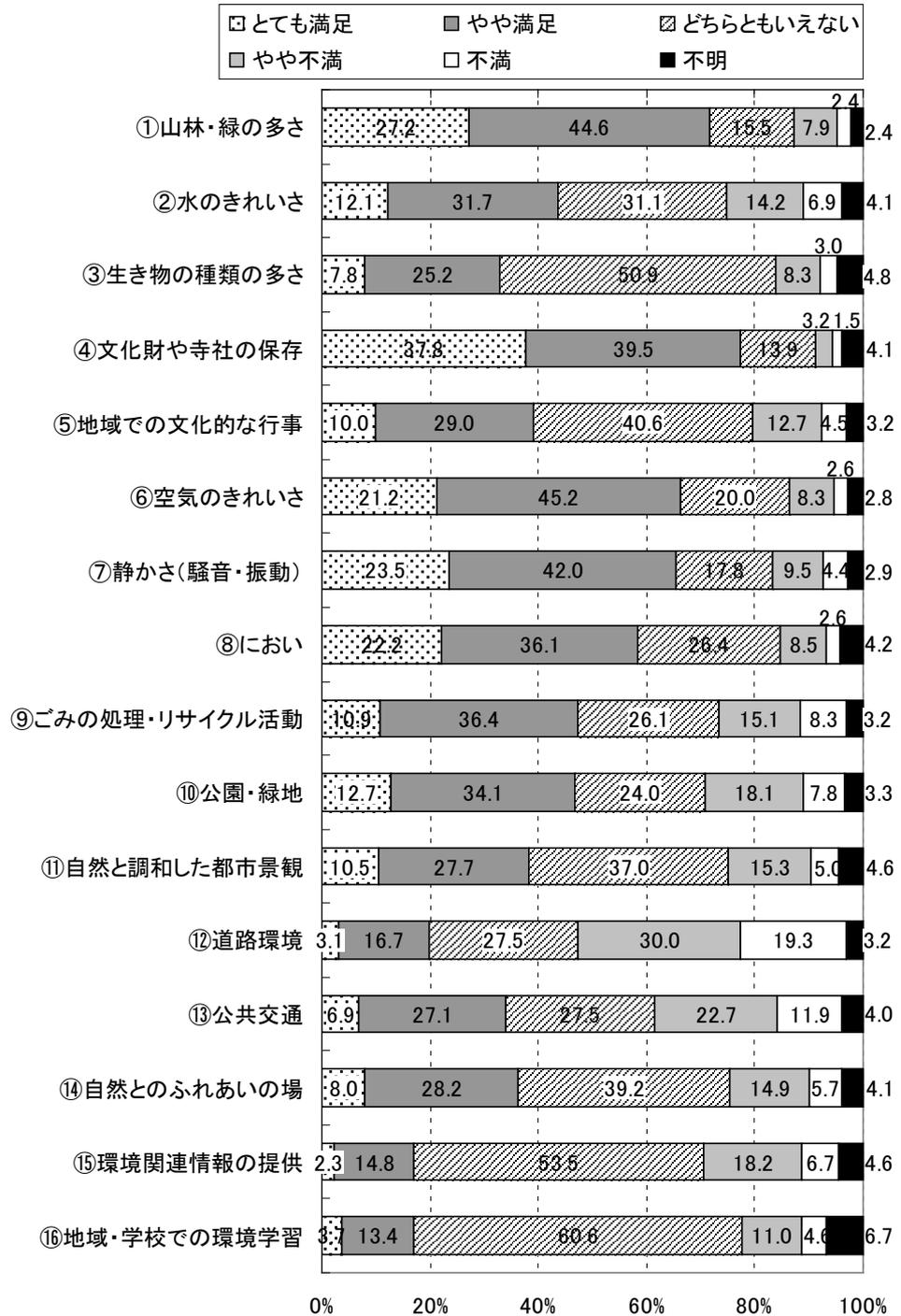
問2 あなたのお住まいの小学校区が含まれるゾーンの番号に○をつけてください。



居住地のゾーンは、西北部ゾーンが52.1%で過半数を占めており、次いで中央市街地ゾーン23.1%、中部ゾーン8.7%の順となっています。最も低いのは月ヶ瀬ゾーンの0.7%です。

問3 以下に掲げる奈良市の環境について、あなたはどのくらい満足していますか。また、それらはどのくらい重要だと考えますか。(満足度と重要度それぞれ1つに○)

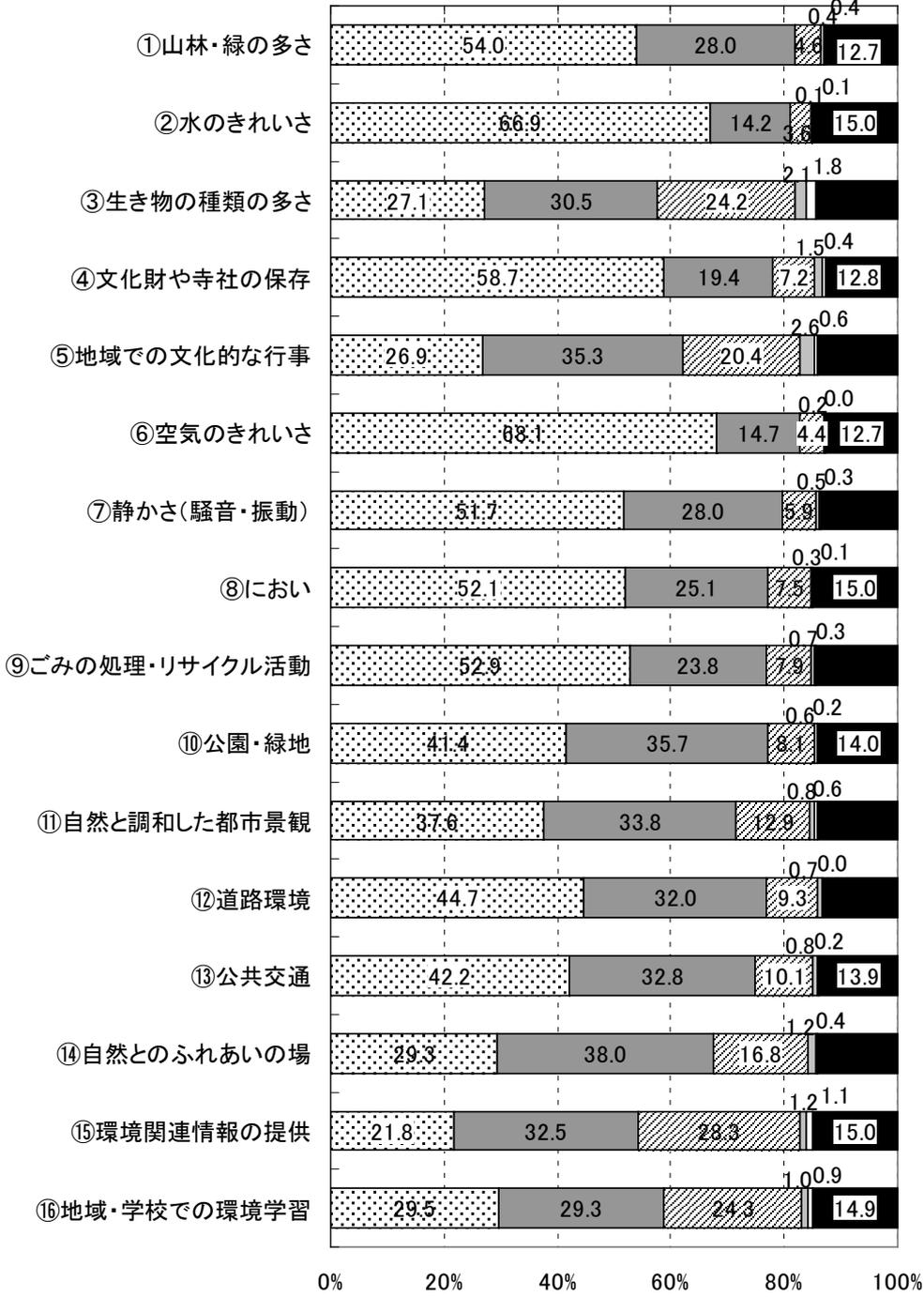
満足度



「とても満足」＋「やや満足」の上位5位まで	「不満」＋「やや不満」の上位5位まで
④文化財や寺社の保存 (77.3%)	⑫道路環境 (49.3%)
①山林・緑の多さ (71.8%)	⑬公共交通 (34.6%)
⑥空気のきれいさ (66.4%)	⑩公園・緑地 (25.9%)
⑦静かさ(騒音・振動) (65.5%)	⑮環境関連情報の提供 (24.9%)
⑧におい (58.3%)	⑨ごみの処理・リサイクル活動 (23.4%)

重要度

とても重要
 やや重要
 どちらともいえない
 あまり重要でない
 重要でない
 不明

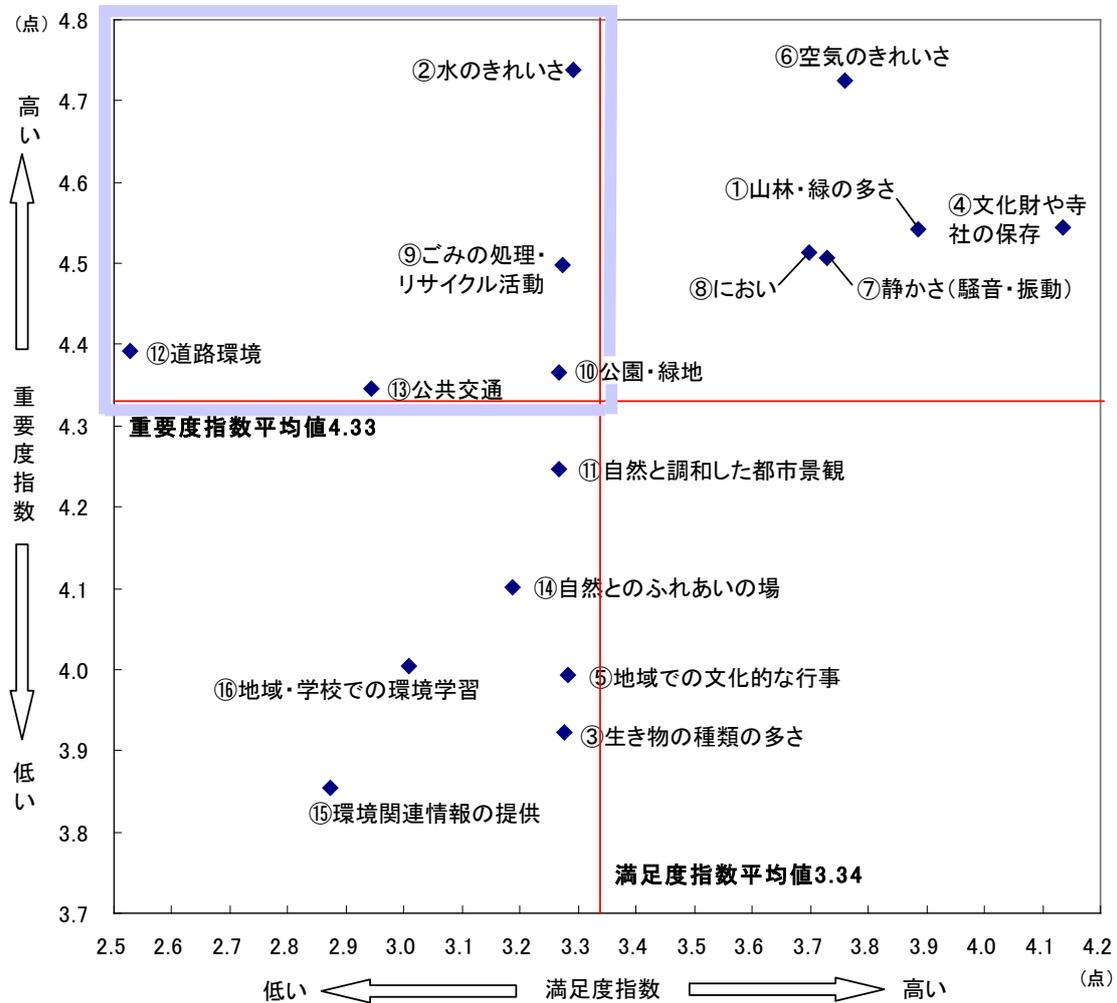


「とても重要」 + 「やや重要」の上位5位まで	「重要でない」 + 「あまり重要でない」の上位5位まで
⑥空気のきれいさ (82.8%)	③生き物の種類の多さ (3.9%)
①山林・緑の多さ (82.0%)	⑤地域での文化的な行事 (3.2%)
②水のきれいさ (81.1%)	⑮環境関連情報の提供 (2.3%)
⑦静かさ (騒音・振動) (79.7%)	④文化財や寺社の保存 (1.9%)
④文化財や寺社の保存 (78.1%)	⑯地域・学校での環境学習 (1.9%)

■満足度と重要度の関係分析

奈良市の環境に関する各項目の満足度指数^{※1}と重要度指数^{※2}を用いて、満足度と重要度の関係を示す散布図を作成し、項目相互の位置関係を示すことで、特性の把握を行いました。

満足度指数が平均値（3.34）を下回り、重要度指数が平均値（4.33）を上回る象限に該当する項目が「今後、積極的に対応を図るべき取組」と考えられます。



奈良市の環境		満足度指数	重要度指数
自然・歴史	①山林・緑の多さ	3.88	4.54
	②水のきれいさ	3.29	4.74
	③生き物の種類の多さ	3.28	3.92
	④文化財や寺社の保存	4.14	4.54
生活環境	⑤地域での文化的な行事	3.28	3.99
	⑥空気のきれいさ	3.76	4.73
	⑦静かさ(騒音・振動)	3.73	4.51
	⑧におい	3.70	4.51
都市環境	⑨ごみの処理・リサイクル活動	3.27	4.50
	⑩公園・緑地	3.27	4.37
	⑪自然と調和した都市景観	3.27	4.25
教育環境	⑫道路環境	2.53	4.39
	⑬公共交通	2.94	4.35
	⑭自然とのふれあいの場	3.19	4.10
	⑮環境関連情報の提供	2.87	3.85
	⑯地域・学校での環境学習	3.01	4.00
平均値(点)		3.34	4.33

※1 満足度指数：アンケート回答者の評価を得点化し、加重平均して算出した値。

- ・とても満足：5点
- ・やや満足：4点
- ・どちらともいえない：3点
- ・やや不満：2点
- ・不満：1点

※2 重要度指数：アンケート回答者の評価を得点化し、加重平均して算出した値。

- ・とても重要：5点
- ・やや重要：4点
- ・どちらともいえない：3点
- ・あまり重要でない：2点
- ・重要でない：1点

次に、居住地ゾーン別と年齢別での傾向をみるために、「満足度」と「重要度」の選択肢ごとに、下記の得点を設定し、項目ごとに全回答（無回答を除く）の平均点を得点として算出しました。従って、「満足度」、「重要度」が高いほど、高得点となります。

とても満足	100点	とても重要	100点
やや満足	75点	やや重要	75点
どちらともいえない	50点	どちらともいえない	50点
やや不満	25点	あまり重要でない	25点
不満	0点	重要でない	0点

■ ゾーン別の満足度

件数（「不明」を除く）	931	514	85	223	61	18	7	23
項目	全体	西北部	中部	中央市街地	南部	東部	月ヶ瀬	都祁
①山林・緑の多さ	70.4	69.3	65.0	73.7	67.6	77.8	75.0	85.9
②水のきれいさ	54.9	55.0	53.2	55.4	50.0	63.9	64.3	71.7
③生き物の種類の多さ	54.2	54.4	51.5	56.2	45.9	55.6	46.4	67.4
④文化財や寺社の保存	75.2	74.8	75.9	78.0	67.2	80.6	67.9	79.3
⑤地域での文化的な行事	55.2	53.6	57.1	59.3	47.5	65.3	57.1	68.5
⑥空気のきれいさ	67.1	67.1	69.4	65.9	61.1	79.2	75.0	84.8
⑦静かさ(騒音・振動)	66.2	69.0	63.5	61.4	55.7	76.4	78.6	83.7
⑧におい	64.6	67.0	62.1	61.9	53.7	75.0	71.4	68.5
⑨ごみの処理・リサイクル活動	55.0	54.1	56.2	56.5	47.1	62.5	64.3	77.2
⑩公園・緑地	54.8	54.5	50.0	59.8	47.1	48.6	53.6	57.6
⑪自然と調和した都市景観	53.6	54.0	49.1	54.8	49.2	43.1	53.6	64.1
⑫道路環境	37.0	37.3	32.4	40.2	31.6	12.5	42.9	46.7
⑬公共交通	46.6	47.4	45.6	51.9	36.5	16.7	46.4	32.6
⑭自然とのふれあいの場	52.4	52.1	50.9	55.3	45.1	59.7	57.1	65.2
⑮環境関連情報の提供	44.7	44.8	44.4	46.0	38.5	37.5	50.0	52.2
⑯地域・学校での環境学習	46.9	46.9	46.8	48.3	41.8	40.3	53.6	58.7
平均得点	56.2	56.3	54.6	57.8	49.1	55.9	59.8	66.5

※網掛けは上位5位までを示す（以下同じ）。

■ ゾーン別の重要度

件数（「不明」を除く）	931	514	85	223	61	18	7	23
項目	全体	西北部	中部	中央市街地	南部	東部	月ヶ瀬	都祁
①山林・緑の多さ	77.3	78.0	77.9	76.2	70.5	87.5	60.7	76.1
②水のきれいさ	79.5	79.5	82.1	79.9	68.4	91.7	67.9	83.7
③生き物の種類の多さ	62.6	64.1	63.2	61.7	52.9	63.9	42.9	64.1
④文化財や寺社の保存	77.3	77.9	76.2	77.6	68.9	81.9	57.1	79.3
⑤地域での文化的な行事	64.3	65.4	60.3	65.0	57.4	68.1	50.0	72.8
⑥空気のきれいさ	81.3	83.0	83.2	78.0	71.3	94.4	67.9	82.6
⑦静かさ(騒音・振動)	75.7	78.5	75.9	70.3	68.4	88.9	60.7	81.5
⑧におい	74.7	76.8	75.3	71.0	66.8	83.3	50.0	78.3
⑨ごみの処理・リサイクル活動	74.9	76.9	77.4	71.2	66.4	83.3	60.7	80.4
⑩公園・緑地	72.3	73.6	71.5	72.3	63.9	69.4	64.3	69.6
⑪自然と調和した都市景観	69.6	71.2	68.2	68.9	60.2	75.0	50.0	71.7
⑫道路環境	73.5	75.7	71.8	71.0	63.5	81.9	64.3	78.3
⑬公共交通	72.1	74.4	70.0	68.9	65.6	81.9	46.4	71.7
⑭自然とのふれあいの場	66.6	68.1	68.2	65.6	57.4	70.8	39.3	69.6
⑮環境関連情報の提供	60.7	61.8	61.5	57.2	55.7	65.3	50.0	67.4
⑯地域・学校での環境学習	63.9	65.4	64.1	62.0	59.4	75.0	50.0	63.0
平均得点	71.6	73.2	71.7	69.8	63.6	78.9	55.1	74.4

○ゾーン別で見る満足度

- ・上位5位までの項目は、「都祁」以外は各ゾーンとも全体と同様の傾向を示しています。「都祁」では、他ゾーンでは上位5位に含まれない「⑨ごみの処理・リサイクル活動」が第5位に入り、「⑧におい」が6位となっています。
- ・全項目の平均得点は「都祁」が最も高く、唯一60点台を示しています。「①山林・緑の多さ」「⑥空気のきれいさ」「⑦静かさ（騒音・振動）」といった自然環境と生活環境に対する満足度が80点台と高い得点であることがわかります。
- ・全項目の平均得点より低いのは、「南部」「中部」「東部」の3ゾーンですが、「南部」は16項目中10項目で最低得点を示しており、特に自然・歴史や生活環境に対する満足度が他ゾーンに比べて全般的に低い傾向にあります。また、「中部」は「①山林・緑の多さ」が最低得点となっています。「東部」は16項目中5項目が最低得点で、特に道路、交通といった都市環境と環境教育に満足度が低い傾向があります。
- ・「⑫道路環境」は、全体を通して「不満」が高い項目ですが、「東部」では12.5点と他のゾーンの中でも際立って低い得点になっています。また、「東部」では「⑬公共交通」も16.7点と他のゾーンに比べて際立って低い得点となっています。

○ゾーン別で見る重要度

- ・全項目の平均得点は、最も高い「東部」と最も低い「月ヶ瀬」では、23.8点の差があります。項目の全般にわたって、「月ヶ瀬」の得点は他ゾーンより低く、16項目中14項目がゾーン中の最低得点を示しています。「月ヶ瀬」は「満足度」の全項目平均が最も高得点であることから、他ゾーンに比べて恵まれた環境にあることが、重要度の得点を低くしていると考えられます。
- ・全体の平均的な傾向とやや違う傾向を示しているのは、「東部」の「⑨ごみの処理・リサイクル活動」「⑧におい」、「都祁」の「⑨ごみの処理・リサイクル活動」に対する得点が高いこと、また、「中央市街地」と「月ヶ瀬」では「⑩公園・緑地」が上位5位に含まれていること、「月ヶ瀬」では「⑫道路環境」が、上位5位に入っていることなどが挙げられます。

■年齢別の満足度

件数（「不明」を除く）	938	17	74	135	140	150	217	141	64
	全体	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
①山林・緑の多さ	70.4	80.9	69.6	67.2	72.3	73.0	71.4	68.6	66.0
②水のきれいさ	54.9	60.3	47.6	48.0	52.5	56.7	56.2	58.0	66.0
③生き物の種類の多さ	54.2	70.6	54.7	54.4	57.9	57.5	53.8	48.4	46.5
④文化財や寺社の保存	75.2	79.4	78.7	76.1	77.5	75.7	77.4	67.0	71.1
⑤地域での文化的な行事	55.2	58.8	55.7	54.1	58.2	57.7	52.5	52.8	57.4
⑥空気のきれいさ	67.1	64.7	64.2	62.0	62.7	68.8	70.7	69.3	70.7
⑦静かさ(騒音・振動)	66.2	73.5	67.6	67.6	63.6	67.0	65.9	63.7	70.3
⑧におい	64.6	72.1	64.5	63.7	62.7	67.0	67.3	59.9	62.5
⑨ごみの処理・リサイクル活動	55.0	58.8	49.7	51.3	50.4	54.8	57.5	58.0	64.8
⑩公園・緑地	54.8	58.8	55.1	43.1	48.6	52.7	58.3	62.2	65.2
⑪自然と調和した都市景観	53.6	52.9	56.8	50.0	52.3	53.0	52.9	53.9	57.0
⑫道路環境	37.0	45.6	37.8	31.9	32.9	34.5	37.9	43.3	40.6
⑬公共交通	46.6	54.4	41.2	42.0	44.5	46.8	47.9	51.4	50.4
⑭自然とのふれあいの場	52.4	51.5	51.4	46.9	52.3	53.7	55.8	55.5	46.5
⑮環境関連情報の提供	44.7	47.1	41.6	43.3	43.0	45.5	45.5	47.5	41.0
⑯地域・学校での環境学習	46.9	57.4	46.3	48.0	50.2	48.8	44.7	47.7	37.5
平均得点	56.2	61.7	55.2	53.1	55.1	57.1	57.2	56.7	57.1

■年齢別の重要度

件数（「不明」を除く）	938	17	74	135	140	150	217	141	64
	全体	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
①山林・緑の多さ	77.3	64.7	82.8	80.4	76.6	79.7	79.0	72.0	67.6
②水のきれいさ	79.5	73.5	82.8	86.3	78.2	84.3	78.6	71.1	70.7
③生き物の種類の多さ	62.6	55.9	65.5	66.5	65.0	66.8	63.7	52.8	53.1
④文化財や寺社の保存	77.3	76.5	82.8	79.8	76.1	79.3	77.9	71.8	69.5
⑤地域での文化的な行事	64.3	60.3	69.6	69.6	66.6	64.8	63.9	55.3	59.4
⑥空気のきれいさ	81.3	75.0	86.1	85.6	79.5	84.0	81.8	74.6	74.6
⑦静かさ(騒音・振動)	75.7	72.1	80.4	80.9	76.1	78.5	75.0	68.4	67.6
⑧におい	74.7	66.2	83.8	79.4	74.6	79.0	74.8	63.7	65.6
⑨ごみの処理・リサイクル活動	74.9	64.7	78.7	78.0	73.9	77.7	76.5	70.2	65.2
⑩公園・緑地	72.3	64.7	75.7	78.3	72.1	72.7	72.1	68.4	60.9
⑪自然と調和した都市景観	69.6	64.7	71.6	72.0	67.5	72.3	70.5	64.4	64.5
⑫道路環境	73.5	63.2	83.8	78.5	73.9	77.5	72.6	65.6	60.5
⑬公共交通	72.1	64.7	78.0	75.7	70.7	77.2	71.2	66.7	61.3
⑭自然とのふれあいの場	66.6	58.8	70.9	71.7	65.7	68.0	69.1	61.3	52.7
⑮環境関連情報の提供	60.7	54.4	62.8	61.1	59.3	63.5	63.4	54.3	53.9
⑯地域・学校での環境学習	63.9	55.9	69.6	68.0	67.0	68.3	62.9	56.7	51.2
平均得点	71.6	64.7	76.6	75.7	71.4	74.6	72.1	64.8	62.4

○年齢別で見る満足度

- ・全項目の平均得点で最も高いのは10歳代(18歳以上)で、唯一60点台となっています。
50歳代以上は全体平均より高く、20～40歳代は、全体平均より低い得点となっています。
- ・70歳台以上は他の年代に比べて、「⑩公園・緑地」の満足度が高い傾向があります。
- ・「⑫道路環境」は、全年齢層で「不満」が高い項目となっており、80歳以上を除いた全年代で最低得点となっています。また、80歳以上では「⑯地域・学校での環境学習」に対する満足度が最低得点となっています。

○年齢別で見る重要度

- ・全項目の平均得点で最も高いのは20歳代の76.6点で、年齢の近い10歳代（18歳以上）と比べると、11.9点の差があります。また、70歳以上は10歳代同様、重要度の平均得点は低く、いずれも60点台となっています。
- ・項目別に見ると、20歳代では「⑫道路環境」が80点台となっており、他の年代より際立って高くなっています。

問4 あなたの日常生活における環境保全の取組状況についておたずねします。
(それぞれ1つに○)

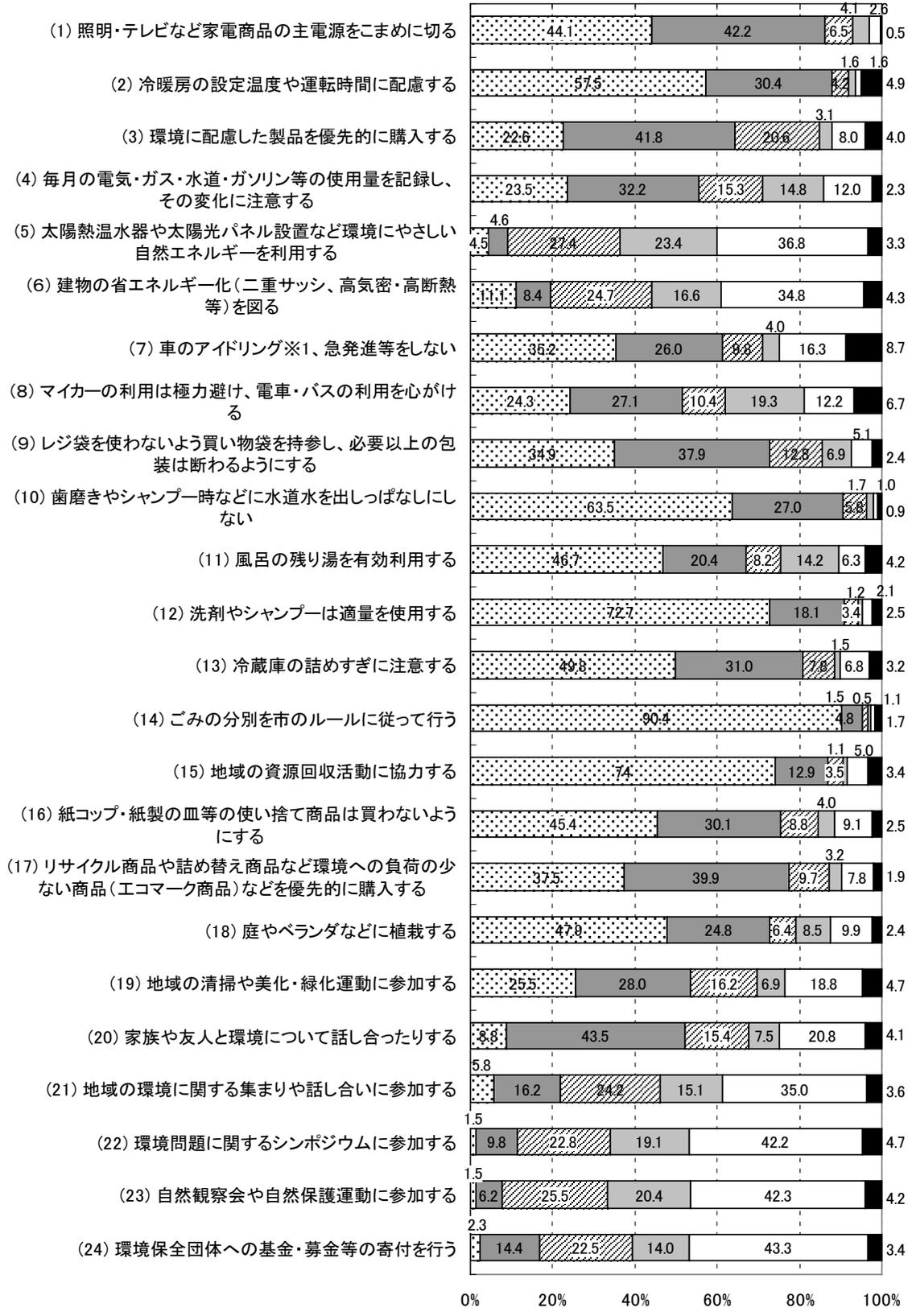
□ 常に実行している ■ 時々実行している ▨ これから実行するつもりである
□ 今後とも実行するつもりはない □ わからない ■ 不明

省エネルギー・二酸化炭素排出削減

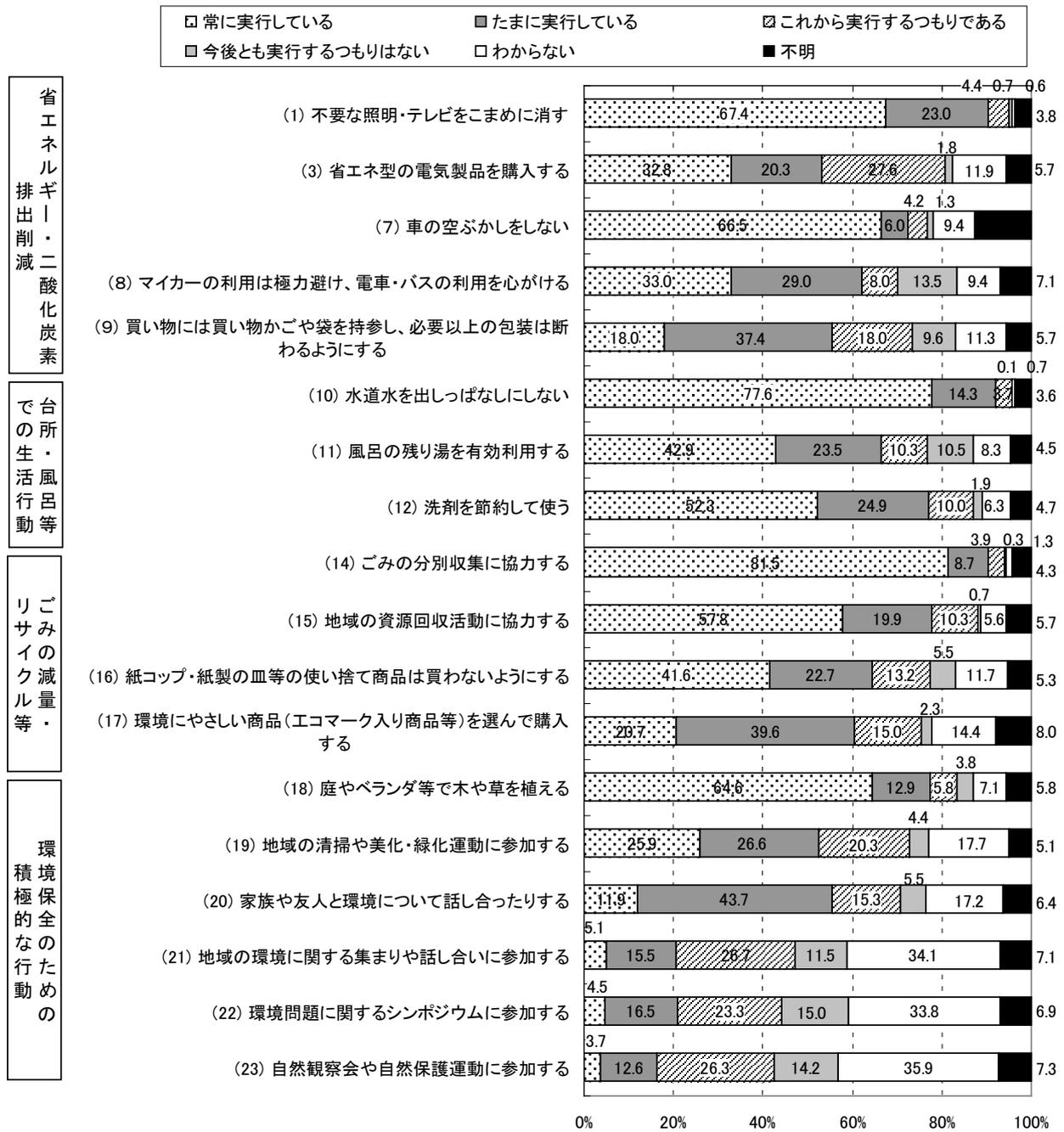
台所・生活行動等での

リサイクルの減量等・

環境保全のための



■前回調査（平成9年度実施）結果



※前回調査の項目番号は、今回調査の項目番号に対応している。

○今回の調査結果

順位	「常に行う」＋「時々行う」のランキング	順位	「これから実行するつもり」のランキング	順位	「今後とも実行するつもりはない」のランキング
1	(14) ごみの分別を市のルールに従って行う 95.2%	1	(5) 太陽熱温水器や太陽光パネル設置など環境にやさしい自然エネルギーを利用する 27.4%	1	(5) 太陽熱温水器や太陽光パネル設置など環境にやさしい自然エネルギーを利用する 23.4%
2	(12) 洗剤やシャンプーは適量を使用する 90.8%	2	(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する 25.5%	2	(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する 20.4%
3	(10) 歯磨きやシャンプー時などに水道水を出しっぱなしにしない 90.5%	3	(6) 建物の省エネルギー化(二重サッシ、高気密・高断熱等)を図る 24.7%	3	(8) マイカーの利用は極力避け、電車・バスの利用を心がける 19.3%
4	(2) 冷暖房の設定温度や運転時間に配慮する 87.9%	4	(21) 地域の環境に関する集まりや話し合いに参加する 24.2%	4	(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する 19.1%
5	(15) 地域の資源回収活動に協力する 86.9%	5	(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する 22.8%	5	(6) 建物の省エネルギー化(二重サッシ、高気密・高断熱) 16.6%
6	(1) 照明・テレビなど家電商品の主電源をこまめに切る 86.3%	7	(3) 環境に配慮した製品を優先的に購入する 20.6%	6	(21) 地域の環境に関する集まりや話し合いに参加する 15.1%
11	(18) 庭やベランダなどに植栽する 72.7%	8	(19) 地域の清掃や美化・緑化運動に参加する 16.2%	8	(11) 風呂の残り湯を有効利用する 14.2%

※網掛け部分は前回調査にはない新規項目を示す。

○前回調査（平成9年実施）の調査結果

順位	「常に行う」＋「たまに行う」のランキング	順位	「これから実行するつもり」のランキング	順位	「今後とも実行するつもりはない」のランキング
1	(10) 水道水を出しっぱなしにしない 91.9%	1	(3) 省エネ型の電気製品を購入する 27.6%	1	(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する 15.0%
2	(1) 不要な照明・テレビをこまめに消す 90.4%	2	(21) 地域の環境に関する集まりや話し合いに参加する 26.7%	2	(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する 14.2%
3	(14) ごみの分別収集に協力する 90.2%	3	(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する 26.3%	3	(8) マイカーの利用は極力避け、電車・バスの利用を心がける 13.5%
4	(15) 地域の資源回収活動に協力する 77.7%	4	(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する 23.3%	4	(21) 地域の環境に関する集まりや話し合いに参加する 11.5%
5	(18) 庭やベランダ等で木や草を植える 77.5%	5	(19) 地域の清掃や美化・緑化運動に参加する 20.3%	5	(11) 風呂の残り湯を有効利用する 10.5%
6	(12) 洗剤を節約して使う 77.2%				

※前回調査の項目番号は、今回調査の項目番号に対応している。

■前回調査（平成9年度実施）との比較

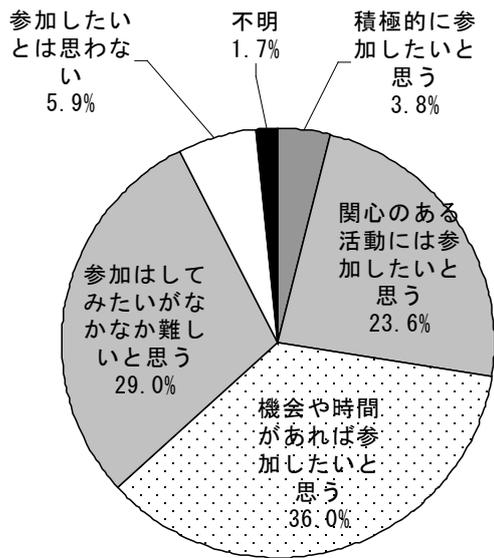
前回調査から10年以上が経過し、市民の環境に対する意識や日常生活における取組はどの程度変化しているのかを知るために、両調査における同じ項目（表現は多少違っても趣旨が似通っているものを含む）の結果を比較しました。

- ・「常に行う」＋「時々（たまに）実行」では、両調査における上位ランキングの変化を見ると、数値には多少の上下があるものの両調査ともに、上位6項目の中の5項目が同じ項目となっており、これらの項目は市民にとって比較的取り組みやすい環境配慮行動であるといえます。
- ・「これから実行するつもり」では、前回調査にはなかった「(5) 太陽熱温水器や太陽光パネル設置など環境にやさしい自然エネルギーを利用する」と「(6) 建物の省エネルギー化(二重サッシ、高気密・高断熱等)を図る」がそれぞれ上位の1位と3位を占めています。また、(5)と(6)は「今後とも実行するつもりはない」でもそれぞれ1位、5位を占めています。
- ・「(19) 地域の清掃や美化・緑化運動に参加する」「(21) 地域の環境に関する集まりや話し合いに参加する」「(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する」「(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する」は環境活動への参加の項目で、一歩進んだ行動となりますが、「これから（たまに）実行するつもり」では、どれも前回調査よりややポイントが低く、

(21) (22) (23)は、その分「今後とも実行するつもりはない」のポイントが前回調査より高くなっています。

問5 今後、環境保全活動には市民参加が一層重要になってくると思われますが、あなたはどのように考えていますか。(1つに○)

(SA) N = 962

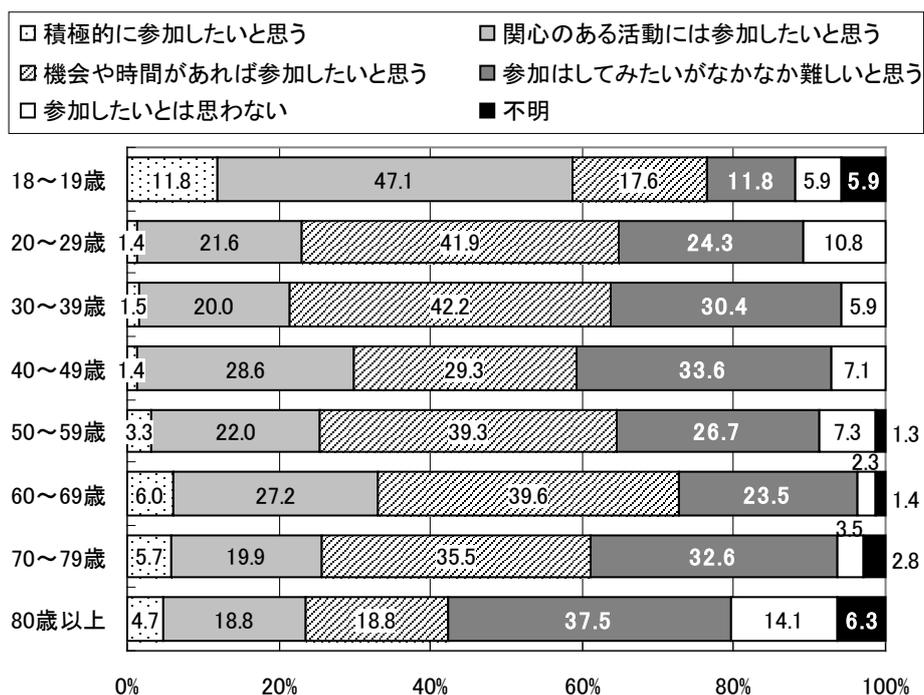


環境保全活動への参加については、「機会有時間があれば参加したいと思う」の割合が最も高く 36.0%、次いで「参加はしてみたいがなかなか難しいと思う」29.0%、「機会有時間があれば参加したいと思う」23.6%となっています。「積極的に参加したいと思う」の割合は低く 3.8%となっています。

これを年齢別に見ると、「積極的に参加したいと思う」と「関心のある活動には参加したいと思う」を合わせて参加に最も意欲的なのは18～19歳で58.9%と過半数を占めていますが、それ以外の年代では60代と40代が、30%台、他は20%台となっています。

「積極的に参加したいと思う」とした人は、20～40代よりも60代、70代の割合が高くなっています。

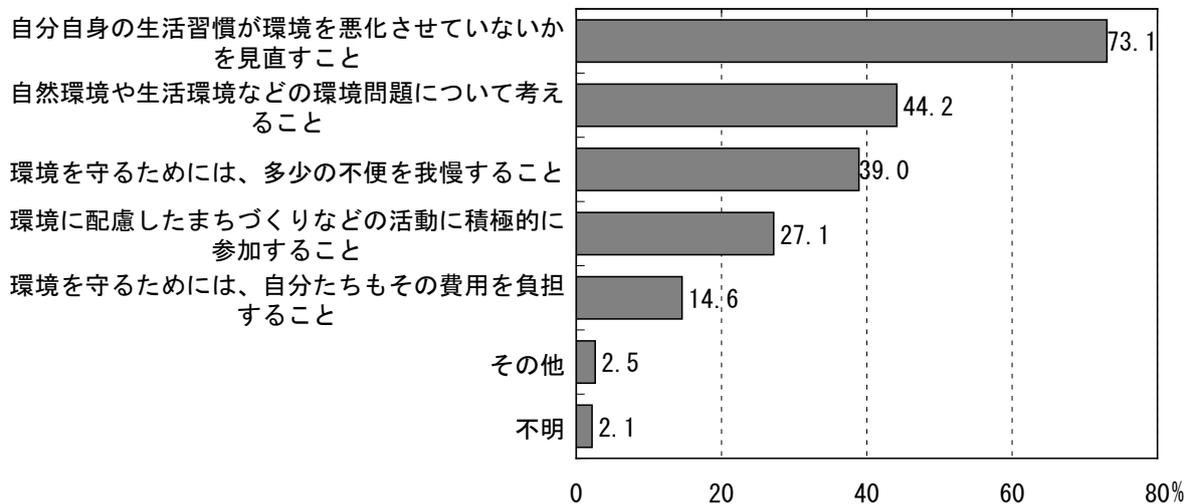
■年齢別でみる環境保全活動への市民参加の思い



問5 「参加したいとは思わない」の理由		件数
高齢や健康上の問題		9
参加を強制すべきでない。各人の自覚や心がけしだいである		8
めんどろ。興味がない		7
時間がない。		6
一層重要との根拠が明確でない。保全活動の定義も明確でない。市民参加の目的がわからない。必要性を理解していない		6
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が主導すべき ・ルールづくり、行政のステークホルダーに対する教育が需要 ・行政が市民側に立ち、市民の状況(現状)を吸い上げた上で、参加したくなる企画をしてほしい ・もっと行政の役職者が市民活動すべき ・未だ行政も市民も重要の認識なし 	5
活動内容が不明		3
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既にグリーンサポートに参加している。 ・参加することに意義があるような活動は不安 ・話し合いばかりで前に進めないため ・おしきせになって、イヤになった事があるので参加等はしない 	4

問6 今後、環境をよりよくするために、「市民」が取り組まなければならないと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

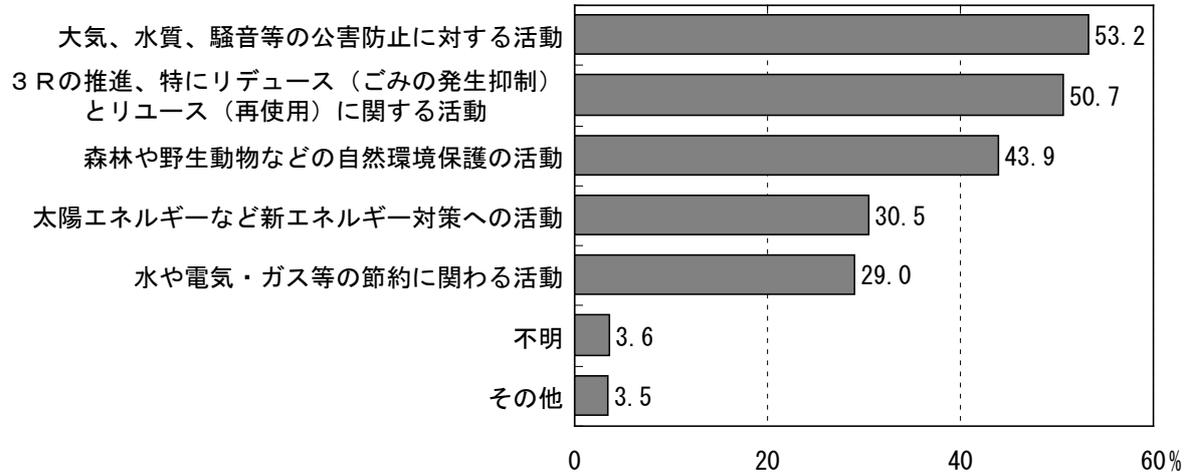
(MA) N = 962



問6 「市民」が取り組まなければならないと思うことの「その他」意見	件数
自覚して行動する	1
不要なものは買わないこと	1
子供達にも家庭でしっかり教育すること	1
一人一人がルールを守る事	1
川の土手や歩道のゴミは見つけたら処理する	1

問7 今後、環境をよりよくするために「市民団体・NPO等」に取り組んでほしいと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

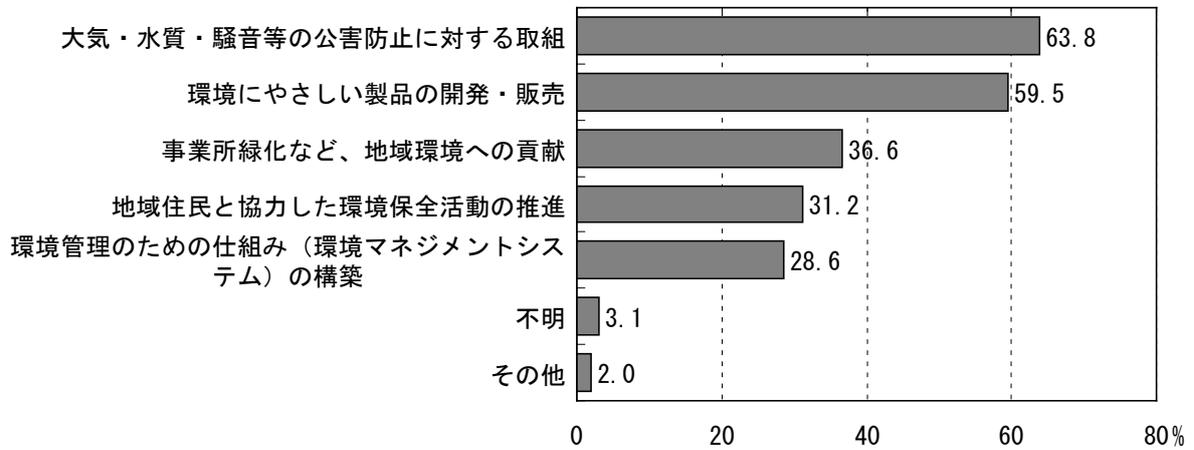
(MA) N = 962



問7 「市民団体・NPO等」に取り組んでほしいと思うことの「その他」意見		件数
ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却場の移転を早期に実施する事、またはこの推進 ・無駄なゴミの分別を中止すること ・街中のゴミの撤去 ・特に不法投棄 	4
	無農薬、有機栽培、有機農法の推進	2
	街並みの美化	1
	文化財や寺社の保存と活用	1
	生活排水の環境への影響をアピールすること	1
	環境問題に関する経費を無くして効果を上げるための方策を考える事	1
	ゴルフ場等で散布される薬物(殺虫剤、殺菌)の使用を少なくする	1
	環境を守るために不便にならず、我慢しなくてよい方法と手段を取り入れた活動を広める	1
	緑を増やす工夫	1

問8 今後、環境をよりよくするために「企業や事業者」に期待することは何ですか。
(〇は3つまで)

(MA) N = 962

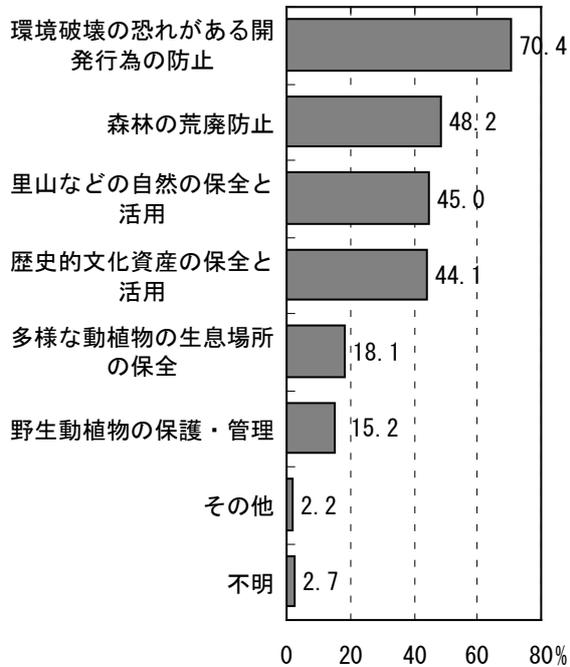


問8 「企業や事業者」に期待することの「その他」意見		件数
ごみ	・清掃工場を人の密集地域から移動する。 ・ごみ焼却場の早期移転と最新整備（公害防止）&システムによる新ごみ焼却場システムの構築	2
社会的な責任行動であり、強制するものではない		1
化石燃料の削減		1
自然を作る		1
無計画性に対する規制の強化		1
京都議定書の目標達成(自力でのもの)		1
地域の整備、近鉄電車による道路事情の悪さを改善		1
環境問題に市の予算を使わずに済むよう、かつ効果をあげる方策を練る事		1
技術開発		1
具体的に何に取り組んでいるのかの広報活動		1
商品の過剰な情報を是非やめてほしい		1
環境を守るためにお金を出す		1

問9 今後、環境をよりよくしていくために「行政（奈良市）」はどのような施策を重点的に進めていくべきだと思いますか。（分野ごとに○は3つまで）

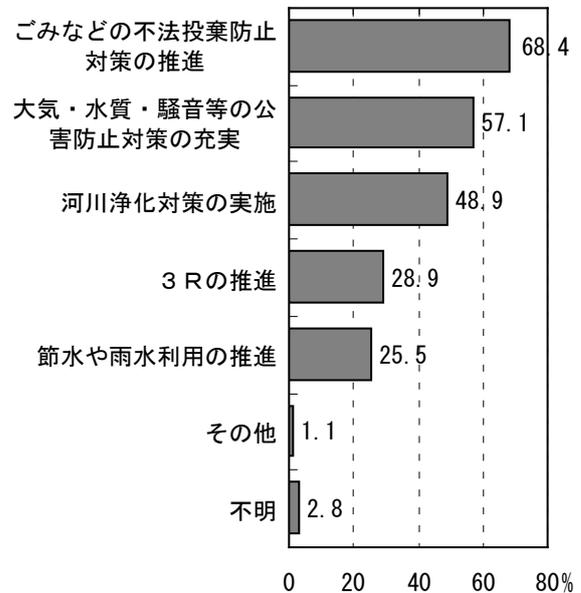
【自然・歴史】

(MA) N = 962



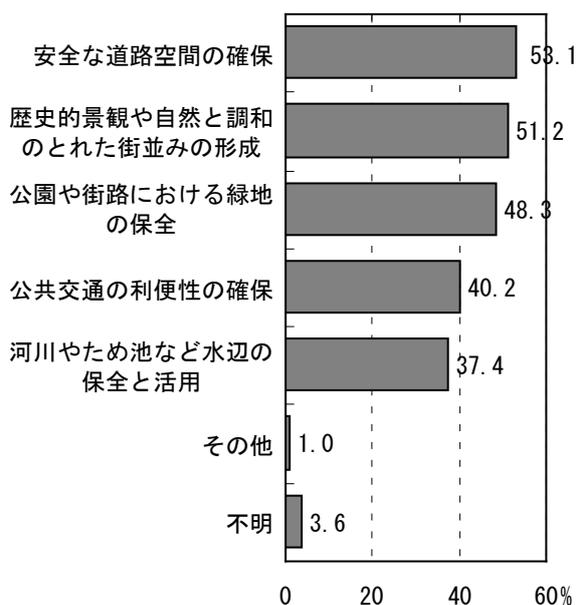
【生活環境】

(MA) N = 962



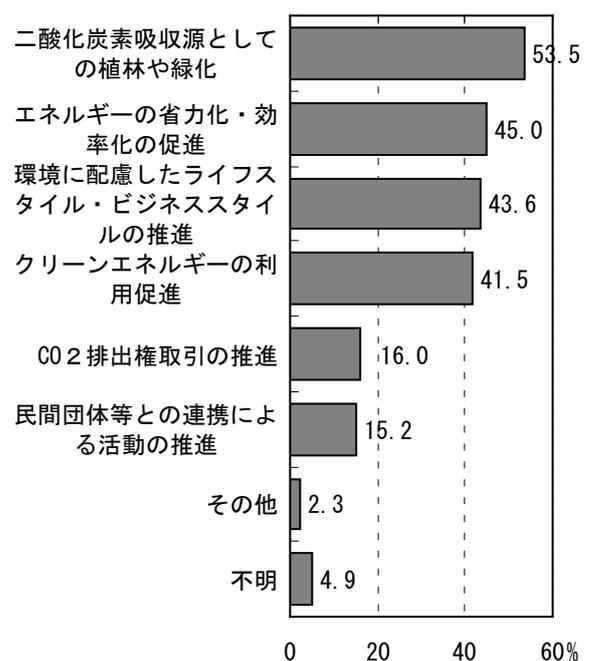
【都市環境】

(MA) N = 962



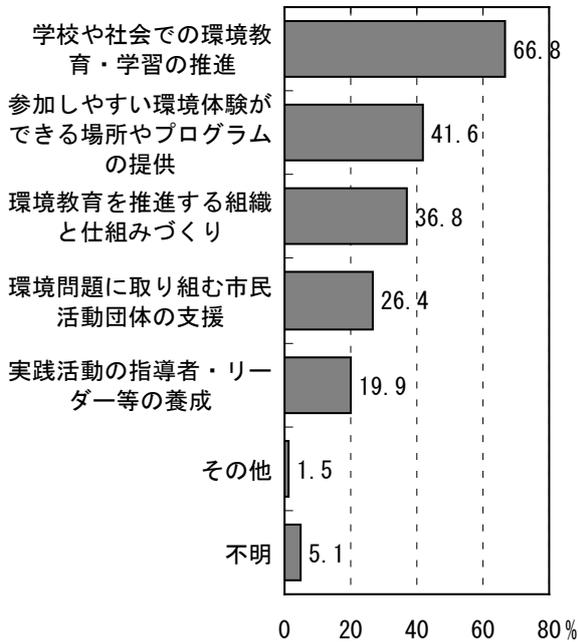
【地球温暖化対策】

(MA) N = 962



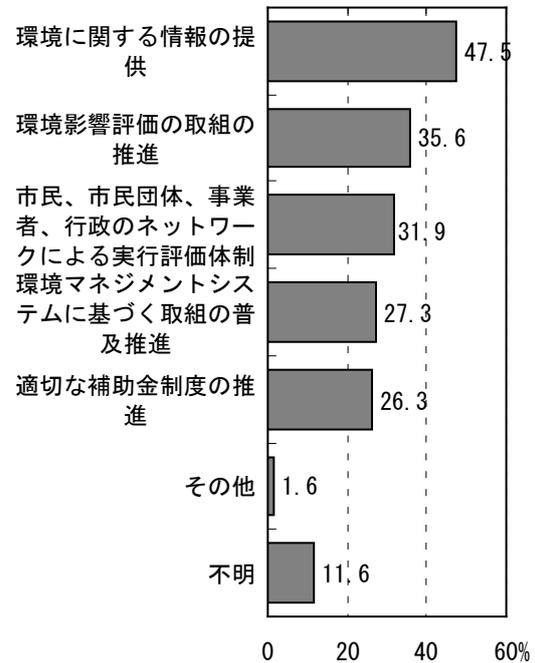
【環境教育】

(MA) N = 962



【その他】

(MA) N = 962



各分野の上位3位まで			
自然・歴史	<ul style="list-style-type: none"> 環境破壊の恐れがある開発行為の防止 (70.4%) 森林の荒廃防止 (48.2%) 里山などの自然の保全と活用 (45.0%) 	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ごみなどの不法投棄防止対策の推進 (68.4%) 大気・水質・騒音等の公害防止対策の充実 (57.1%) 河川浄化対策の実施 (48.9%)
都市環境	<ul style="list-style-type: none"> 安全な道路空間の確保 (53.1%) 歴史的景観や自然と調和のとれた街並みの形成 (51.2%) 公園や街路における緑地の保全 (48.3%) 	地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素吸収源としての植林や緑化 (53.5%) エネルギーの省力化・効率化の促進 (45.0%) 環境に配慮したライフスタイル・ビジネススタイルの推進 (43.6%)
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校や社会での環境教育・学習の推進 (66.8%) 参加しやすい環境体験ができる場所やプログラムの提供 (41.6%) 環境教育を推進する組織と仕組みづくり (36.8%) 	その他	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する情報の提供 (47.5%) 環境影響評価の取組の推進 (35.6%) 市民、市民団体、事業者、行政のネットワークによる実行評価体制の整備 (31.9%)

■居住ゾーン別に見た行政が重点的に進めるべき施策

(単位：%)

分野	項目	全体	居住ゾーン						
			西北部	中部	中央市街地	南部	東部	月ヶ瀬	都祁
自然・歴史	里山などの自然の保全と活用	45.0	46.1	40.0	43.0	49.2	55.6	71.4	52.2
	森林の荒廃防止	48.2	48.8	57.6	44.8	42.6	50.0	28.6	52.2
	環境破壊の恐れがある開発行為の防止	70.4	71.4	74.1	70.9	68.9	50.0	42.9	69.6
	多様な動植物の生息場所の保全	18.1	19.1	20.0	16.6	11.5	16.7	42.9	13.0
	野生動植物の保護・管理	15.2	15.0	16.5	14.3	18.0	16.7	-	26.1
	歴史的文化資産の保全と活用	44.1	46.9	41.2	47.1	31.1	38.9	28.6	21.7
	その他	2.2	1.9	1.2	3.1	-	11.1	14.3	-
生活環境	大気・水質・騒音等の公害防止対策の充実	57.1	58.0	57.6	58.3	55.7	44.4	57.1	56.5
	河川浄化対策の実施	48.9	49.2	47.1	52.0	39.3	33.3	57.1	43.5
	節水や雨水利用の推進	25.5	26.1	29.4	25.1	18.0	27.8	28.6	17.4
	3Rの推進	28.9	30.7	25.9	27.4	23.0	16.7	28.6	43.5
	ごみなどの不法投棄防止対策の推進	68.4	65.6	74.1	73.1	75.4	77.8	42.9	69.6
	その他	1.1	1.2	1.2	0.9	-	5.6	14.3	-
都市環境	河川やため池など水辺の保全と活用	37.4	34.0	47.1	39.0	34.4	44.4	57.1	56.5
	公園や街路における緑地の保全	48.3	52.1	47.1	47.5	41.0	11.1	42.9	47.8
	安全な道路空間の確保	53.1	51.4	56.5	57.8	47.5	55.6	42.9	47.8
	公共交通の利便性の確保	40.2	41.2	35.3	40.4	37.7	61.1	42.9	34.8
	歴史的景観や自然と調和のとれた街並みの形成	51.2	52.7	49.4	57.0	41.0	44.4	28.6	39.1
	その他	1.0	1.4	-	0.4	-	5.6	14.3	-
地球温暖化対策	環境に配慮したライフスタイル・ビジネススタイルの推進	43.6	45.3	36.5	44.4	36.1	44.4	42.9	47.8
	エネルギーの省力化・効率化の促進	45.0	45.9	48.2	43.5	42.6	38.9	57.1	52.2
	クリーンエネルギーの利用促進	41.5	42.0	37.6	46.6	27.9	38.9	14.3	47.8
	二酸化炭素吸収源としての植林や緑化	53.5	54.3	58.8	55.2	50.8	50.0	28.6	39.1
	CO2排出権取引の推進	16.0	16.1	16.5	15.7	14.8	22.2	14.3	26.1
	民間団体等との連携による活動の推進	15.2	13.6	18.8	17.5	14.8	16.7	28.6	4.3
	その他	2.3	3.1	-	1.8	-	5.6	14.3	-
環境教育	学校や社会での環境教育・学習の推進	66.8	68.5	70.6	66.8	55.7	66.7	71.4	56.5
	環境教育を推進する組織と仕組みづくり	36.8	36.0	34.1	41.3	31.1	50.0	14.3	43.5
	実践活動の指導者・リーダー等の養成	19.9	20.2	14.1	19.3	26.2	22.2	28.6	26.1
	参加しやすい環境体験ができる場所やプログラムの提供	41.6	41.1	43.5	43.5	42.6	44.4	14.3	43.5
	環境問題に取り組む市民活動団体の支援	26.4	29.4	29.4	22.4	21.3	22.2	28.6	21.7
	その他	1.5	1.8	-	0.9	1.6	5.6	14.3	-
その他	環境影響評価の取組の推進	35.6	37.7	29.4	37.2	31.1	5.6	42.9	30.4
	環境マネジメントシステムに基づく取組の普及推進	27.3	26.8	29.4	28.3	21.3	38.9	42.9	34.8
	環境に関する情報の提供	47.5	48.6	51.8	46.2	45.9	50.0	14.3	34.8
	市民、市民団体、事業者、行政のネットワークによる実行評価体制の整備	31.9	30.9	35.3	35.0	31.1	22.2	28.6	43.5
	適切な補助金制度の推進	26.3	27.2	25.9	23.3	26.2	38.9	14.3	43.5
	その他	1.6	1.6	-	2.2	-	5.6	14.3	-

※各分野の上位3項目に網掛けしている。同位が複数項目あって上位3項目を選ばない場合のみ、4項目までを網掛けしている。

行政が重点的に進めるべき施策を、全体結果と居住ゾーン別結果で比較し、ゾーン別の特徴を分野ごとに見ると以下ようになります。

- ・「自然歴史分野」：「月ヶ瀬」では、「多様な動植物の生息場所の保全」が「森林の荒廃防止」より上位の2位に入っています。
- ・「生活環境分野」：「都祁」では、「3Rの推進」が「河川の浄化対策」と並んで3位に入っています。
- ・「都市環境分野」：「河川やため池など水辺の保全と活用」が「月ヶ瀬」と「都祁」で1位を占めており、「中部」と「東部」でも3位に入っています。「東部」では「公園や街路における緑地の保全」が他のゾーンでは40～50%であるのに対し、11.1%と低い割合を示しています。また、「東部」では「公共交通の利便性の確保」が1位を占めており、「月ヶ瀬」でも3位に入っています。
- ・「地球温暖化対策分野」：「月ヶ瀬」と「都祁」では、「エネルギーの省力化・効率化の促進」が1位を占めており、他のゾーンで1位の「二酸化炭素吸収源としての植林や緑化」は3位となっています。
- ・「環境教育分野」：「月ヶ瀬」では、他のゾーンで2～3位の「環境教育を推進する組織と仕組みづくり」や「参加しやすい環境体験ができる場所やプログラムの提供」は14.3%と低く、「実践活動の指導者・リーダー等の養成」や「環境問題に取り組む市民活動団体の支援」が2位と上位を占めています。
- ・「その他分野」：「東部」では、他のゾーンで2～3位の「環境影響評価の取組の推進」が5.6%と低く、「適切な補助金制度の推進」が他のゾーンより高くなっています。また、「月ヶ瀬」では、他のゾーンで高い割合の「環境に関する情報の提供」が14.3%と低く、「環境マネジメントシステムに基づく取組の普及推進」が他のゾーンに比べて高い割合になっています。「都祁」では、「市民、市民団体、事業者、行政のネットワークによる実行評価体制の整備」と「適切な補助金制度の推進」が1位になっています。

各分野の選択肢「その他」に記入された意見は以下の通りです。

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
自然・歴史	違法排出の個人・事業所の監視	1
	省CO ₂ 導入に対する補助制度	1
	市有地の里山の樹木の適時の枝打ち（里山周辺の日照時間の確保）	1
	京都議定書の目標達成（行政は地域社会を含む）	1
	山林・森林への固定資産税の撤廃等の優遇処置	1
	文化遺産に対しての研修・講演会	1
	市民参加型のイベントを充実	1
	田、畑の荒廃防止	1
	市民の生活に欠かせない水や水源を長期の視点で守ってほしい	1
	平城京跡に地下トンネルをつくる計画は、木筒など地下の文化遺産が破損するので絶対に止めてほしい	1
	開発地域の農地の見直し 田畑を宅地ばかりにしないで、農作物ができる環境を作るべき	1

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数	
生活環境	ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別をもっとアピールして徹底してほしい。高齢者などわかりづらい ・無駄な分別、意味のない分別の中止 ・タバコのポイ捨て、地域住民が困っているカラスのごみ荒らし対策 	3
	検査・監視が行政の仕事	1	
	省CO ₂ 導入に対する補助制度	1	
	太陽エネルギーの推進、補助	1	
	東大寺周辺の渋滞、人力車をなくす	1	
	過剰な野外広告物の規制、撤去	1	

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数	
都市環境	歩道	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道表示のない道路が多い。これからは車道優先ではなく歩道確保である ・歩道の自転車に対するルールを作り、違反者に対する処罰 ・歩道の拡幅、新設 	3
	西大寺地区の再開発、鉄道の地下化	2	
	各住戸でブロック塀の代りに生垣にして緑化を増やす	1	
	公共交通（特にバス）の排ガス規制・大型トラック等の通行規制	1	
	イベント等の時、バスの公園内の立ち入り禁止をお願いしたい	1	
	省CO ₂ 導入に対する補助制度	1	
	公共料金が高過ぎるので活用できない	1	
	企業の設置促進、ポイ捨て罰金条例の実施	1	

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
地球温暖化対策	本当に温暖化しているのかの検証が必要	1
	省CO ₂ 導入に対する補助制度	1
	選択肢5のような馬鹿な手法をとらないこと、世界的視点が必要	1
	テレビの放送時間が長すぎるので、曜日によって制限すべき	1
	地球温暖化と環境問題は、本当はあまり関係がない事をもっと広く知らしめる必要がある	1
	無駄な消費をなくせばよい	1
	ノーマイカーDAYの日を4倍多くする。時間帯及び曜日による車両通行制限を実施する	1
	アイドリンクストップを徹底してほしい	1
	河川のコンクリート護岸は生き物を殺すもので、自然を保つものとはとても思えない。コンクリートではなく別のものを考えるべきである	1
	地域住民が対策できる具体的な項目を出してほしい。対策が大きすぎると住民にわかりづらい	1

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
環境教育	環境問題の正しい知識を提供する	1
	研究機関への援助	1
	子供にエネルギー節約の大切さを理解させるため、学校で体験学習をさせる	1
	考えることは必須であるが、行動が伴わなければ全く意味がない	1
	学校教育又は地域活動などに積極的に参加できるようなシステムが必須である。	1
	住みやすい地と環境に配慮することは両立できることだと思う。市だけではなく市民も共にできることが望ましい。実際は市のリーダーシップが求められることも多々あると思う。期待している	1
	我々市民が最も身近に感じる緑は道路沿いの街路樹だと思うので、街の中に緑があふれている、そんな風景を期待したい	1
	①環境教育は身の周りの出来る事を幼児教育から初める ②先生の教育	1

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
その他	環境分野に携わる行政内部の意識改革や環境教育が必要ではないか	1
	行政としての目標を設置すべき	1
	省CO ₂ 導入に対する補助制度	1
	地場伝統産業の活性化、支援などと、ミシュランガイドに載るような自然・歴史スポットの整備	1
	お金をかけない新技術の開発	1

問 10 環境をよくするためのアイデアやご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

335 件（アンケート調査票数）の自由意見の記述がありました。テーマごとに整理し、主な内容を以下にまとめています。

意見の分類	件数	主な内容
ごみについて (89件)	8 7 6 6 6 5 5 4 4 4 4 4 4 3 3 2 2 2 2 12	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみのポイ捨てが多い ・ごみ分別の必要性はあるのか、必要ない ・大型ごみの不法投棄が目につく ・庭木等剪定ごみが収集されない(緑化推進と矛盾) ・犬の糞始末のマナーが悪い ・タバコのポイ捨て ・ごみの収集場所に関して(カラス対策、場所の設定、場所の整備) ・大型ごみの回収方法の検討(リサイクル等、システムづくり) ・ごみ収集車の収集態度について(ごみこぼし、走行中開けたままの収集口等) ・ごみ分別のため、ごみ袋の有料化 ・ごみ焼却施設の改善、設置場所 ・排出ごみの削減(家庭・企業) ・ごみ分別のルールを周知させる(情報不足) ・生ごみ家庭内処理機の補助金制度継続と増額、市民への普及 ・大型ごみの不法投棄をなくすため、有料化をやめる ・ごみ分別のマナーが悪い ・ごみ分別の徹底 ・ごみの野焼きを禁止すべき(大気汚染) ・その他(電球、電池の回収、資源ごみとポイント交換、ごみ問題の教育、監視体制等)
道路について (49件)	26 12 11	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備(拡幅、舗装、段差、行き止まり・袋小路なくす) ・歩道・歩行者用道路の設置、整備(舗装、街路樹の剪定等) ・自転車専用道路の整備
行政に対して (49件)	4 3 3 3 3 3 3 2 2 1 1 21	<ul style="list-style-type: none"> ・無秩序な開発に対する市の規制強化、監視、取り締まり、住民への啓発 ・強いリーダーシップと、それを裏付ける政策・考え・数値が必要 ・住民の要望に対する対応のスピードが遅い ・目に見える形で何か一つ実行する(エコバック徹底化等) ・奈良市の環境施策の市民への周知 ・行政からの情報発信、啓発啓蒙活動 ・行政が率先して先進的な取組をすべき ・税金の無駄遣いにならない市政運営を ・宅地造成に対して指導を徹底すべき ・企業に対し環境基準を示し遵守させる ・市民や企業に働きかける努力 ・その他(市の環境行政に対する意見や職員の対応など)
個人レベル(32件)	32	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりができる小さなことから始める、個人の自覚、意識改革など
緑・公園・森林 について (31件)	12 4 4 3 2 2 1 1 1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・公園・緑地を整備する、適切な管理をする、数を増やす ・緑の保全 ・子どもと憩える公園・遊び場がほしい ・森林破壊、伐採をやめる ・宅地、道路の緑化推進 ・森林・竹林の緑を残した住宅地開発、緑の質と繋がりが大事 ・緑(田畑)を減らさない取組 ・市有地樹木の剪定をお願いしたい ・森林公園がほしい ・森林を守り、おいしい水をいつまでも飲めるように
教育について (20件)	16 4	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育が大切(幼少時から、学校教育で、市民に対して) ・道徳心、倫理観の養成、モラルの大切さ等

公共交通 について (19件)	13 2 2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・車を減らすため、公共交通の整備(鉄道のインフラ整備、バス路線の充実、バス運賃・近鉄運賃の値下げ、等) ・交通渋滞 ・信号の待ち時間の見直し ・その他(交通事故の原因調査、バス停の整備)
河川について (18件)	4 4 4 2 2 1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・多自然型自然工法の川に ・川に自然を戻す(ホタルなど) ・河川へのごみ投棄・ごみ堆積が多い ・市民・観光客への啓蒙活動が必要 ・河川の美化(地域、ボランティア等による定期的な一斉清掃計画など) ・川の水質(生活排水、工場排水) ・河川の洪水対策 ・川の周辺の臭気、泥沼の堆積 ・川や池の堰き止め(上流でダム化)
アンケート調査 について (10件)	3 2 5	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容 ・アンケート実施の意味について ・その他(実施方法、結果公表、アンケートよりタウンミーティングを、等)
文化遺産 について (8件)	5 1 1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・文化遺産、文化財、社寺等の保全と活用に努める ・奈良の歴史・文化財を生かした街づくりに取り組み、景観を守る ・歴史的な文化財・環境を守りつつも発展を考える ・歴史にとらわれすぎない先進的まちなみづくり
市民参加 について (7件)	3 2 1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動へ参加している、自主的活動をしている(水路掃除) ・全市民参加型の施策が必要 ・市民の草の根活動の定着とそれを維持させる行政の支援が必要 ・環境保全活動の場の創出、イベント
その他 (58件)	6 4 3 2 2 2 2 2 2 2 2 29	<ul style="list-style-type: none"> ・評価体制の整備、評価システム、第3者評価等 ・身近な情報、具体的な情報の提供、情報量を増やす、等 ・レジ袋の有料化、簡易包装 ・高齢者を積極的に活用できる仕組みを作ること ・広告看板の広告規制、文化財や寺社の集中する場所の看板等を整備 ・電線の地中埋設化 ・法やルールの遵守、条例を設定して罰則を設ける ・喫煙禁止区域の拡大 ・イノシシなどの動物の畑荒らし ・太陽光発電、コスト、余剰電力の売買 ・下水道100%完備 ・その他

自由意見の記述の中で、アイデアとして提案があったものを以下に掲載します。

アイデアの提案
<p>実現する事は難しいと思われるが、リサイクルできるすべてのものに対して「消費者にリサイクルする料金を課すのではなく、デポジット方式の導入」はいかがなものかと考える。</p>
<p>リサイクルについて 人材確保し、リサイクルに協力する人に対して1円でももらえるようにしていけばどうか。また、持って行ったら1、2円という事もあるので、そのためポイントを貯めたりして、景品などをつけたりしてはどうか。</p>
<p>現在、資源ごみとして出している空缶、ペットボトル、紙パックなどは、どこかに持っていくと、ポイントを集める事ができ、何かと交換できるシステムがあればいいと思う。以前住んでいた所では、シルバー人材センターの方々が働かれていたが、ポイントをためると図書券と交換してくれるので、子どもは競って、ポイ捨てされた空缶を拾い、その辺りはとてもきれいになり、一石二鳥だった。小さな子どもでも楽しんでエコ活動に協力できるようになる。</p>
<p>ボランティアによる里山森林の手入れ等を定期的に行う組織作りを進め、地主に対して作業交渉できる組織を市役所内部に設ける。またはシルバーセンターなどの組織の活用を図る。市民としてボランティア活動がもっと簡単にできるように情報提供を進める事が大切と考える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・増加する高齢者(60歳以上)を活用する仕組みを作り、環境体験、環境教育、推進リーダー育成、各種プログラムの提供等を実施できるようにする。 ・簡単なことを地道にこつこつと継続して実行することが重要であるため、時間的な余裕があるシニア層に対する啓蒙、意識改革、そして活用する仕組みを構築する。
<p>70歳以上の健康な老人を積極的に活用できる仕組みを作る事。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・安心でおいしい水を奈良の売りにする。 ・各小学校でビオトープを作り、生物の観察を通して、環境を考える。 ・各中学校区で、ECO祭などを実施し、地域と交流を図りながら身近にできる事を考えていく。などどうか。
<p>奈良市の水道水は他の都市に比べ、とてもおいしいが、夏場になると味が落ちる。何か工夫をして、一年一定の水準を保ち、さらにおいしくして他の都市のように、商品化して販売(ペットボトル)はどうか。</p>
<p>指標生物を使った環境調査をレビューするとともに、市民に分かりやすい指標生物を使って、市民参加のもと、これから長いスパンで環境調査を行い、環境の現状をわかりやすい形で市民と共有してはどうか。</p>
<p>100年会館前に新しい保健所を建設中だが、太陽光パネルを設置し、夜間の照明に利用したり、雨水タンクを設置し外路樹の水やり等に利用してはどうか？災害時の避難場所としても太陽光パネルや雨水タンクは役立つ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通機関(奈良ではバス)の活用推進 ○上記に伴う歩道の整備(歩行者が危険な道路が多い) ○駅前駐輪場の整備(他の市等に比べて高すぎるので利用価値を感じない)月1000円が理想(ミニバイクも含む) ○リサイクルの推進 ○無料型のフリーマーケットの定期的な開催、インターネットで公開(無料でほしい人に渡す) ○無料ペットボトル回収場所の設置(公民館等) ○無料古紙回収場所の設置(公民館等) ○公共施設での全面禁煙の実施
<ul style="list-style-type: none"> ○歴史にとらわれすぎず、調和した先進的な街並みづくり。 ○常に整備された市民公園を造る。 ○行政が率先し、先進的な高効率機器の導入。
<ul style="list-style-type: none"> ・パリなどで実用化されている無人レンタルサイクル駅を市内の重要な場所に設置。費用は広告費でまかなう。

1. 公共施設での太陽エネルギー(ソーラーパネル、温水器)使用の義務化及び雨水利用の義務化。
2. CAR-FREE ARIA、例えば奈良公園、奈良周辺に設ける。
3. 自転車専用道(車道歩道とは別に整備、駐輪場の無料化)。
4. 生ごみの推肥化、個人レベルではなく、町ぐるみで。
5. ディーゼル車の規制(大阪や東京並みの)。
6. 有機農法をする事に関しては、農家でなくても農地の利用の制限をなくす。
7. 市民が環境を保護する活動に参加したら、市民税を減らす。

○公共交通の整備。スーパー前や病院の前にバス停留所を作り(バス料金も低くする)、百貨店・駅前・県庁・市役所経由のバスを運行する。○自動車の高齢者に公共交通を利用してもらうようにする。※免許証を写真付き身分証明書にした人には、バス料金も一律200円チケット(市役所で配布)が使える。バス・電車を利用してもらうようにすると、外出して足も強くなり、元気になる。そして何よりも事故がなくなる。余りにも高齢者のドライバーが多すぎて、歩いているのが怖い。

・パリなどで実用化されている無人レンタルサイクル駅を市内の重要な場所に設置。費用は広告費でまかなう。

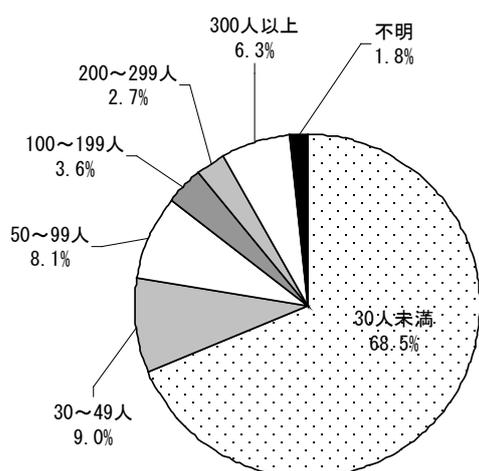
貴重なレアメタルをごみとしないで、市は電子部品の回収場所を役所内、清掃センター内に設ける。

III 事業所アンケート調査結果

問1 事業所の属性・区分

(1) 従業員数

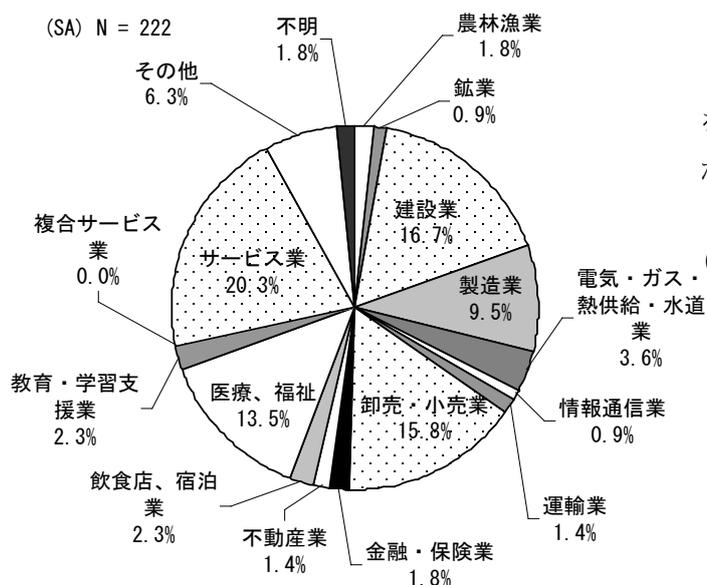
(SA) N = 222



従業員数は、100人未満の事業所が全体の85.6%、うち30人未満が68.5%を占めています。一方、300人以上は6.3%です。

(2) 業種

(SA) N = 222



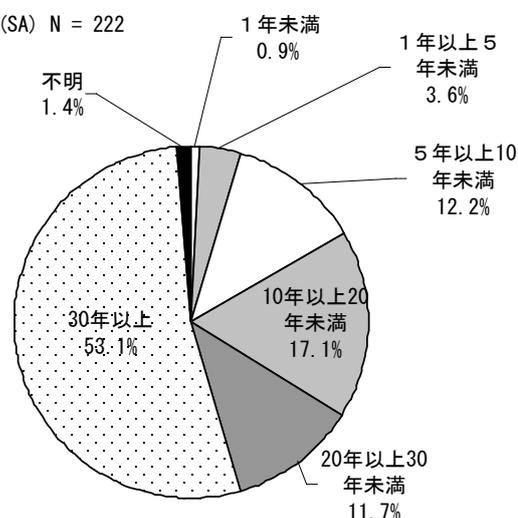
問1(2) その他 ()内記述	件数
地方公共団体	1
公務	1
販売	1
公共施設	1
公益法人	1

業種の上位5位は、サービス業 20.3%、建設業 16.7%、卸売・小売業 15.8%、医療・福祉 13.5%、製造業 9.5%となっています。

なお、選択肢の「複合サービス業」はありませんでした。

(3) 事業年数

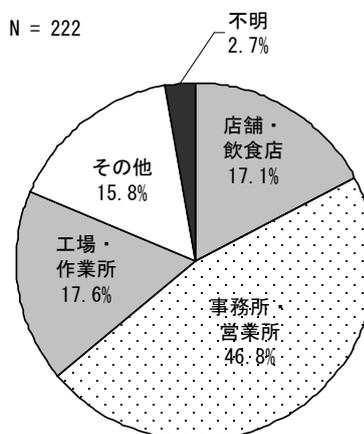
(SA) N = 222



事業年数は、30年以上が過半数(53.1%)を占めており、次いで10年以上20年未満が17.1%となっています。

(4) 事業所形態

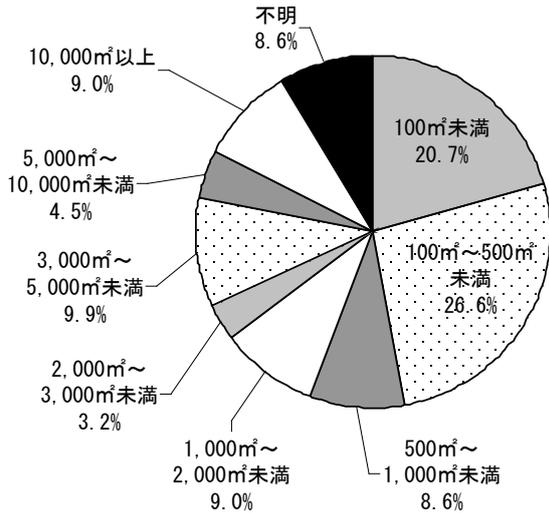
(SA) N = 222



事業所形態は、事業所・営業所が 46.8%で最も高く、次いで工場・作業所 17.6%、店舗・飲食店 17.1%と続いています。

(5) 施設の延床面積

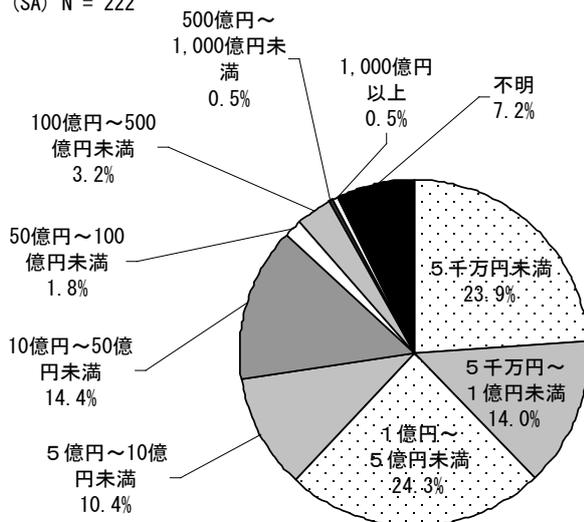
(SA) N = 222



施設の延床面積は、100㎡~500㎡未満が 26.6%で最も高く、次いで 100㎡未満 20.7%、3,000㎡~5,000㎡未満 9.9%と続いています。

(6) 年間売上高

(SA) N = 222

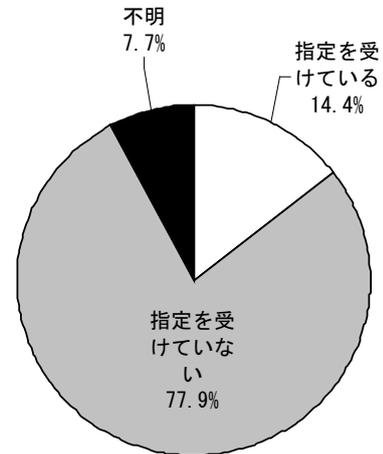


年間売上高は 1億円~5億円未満が 24.3%で最も高く、次いで 5千万円未満

23.9%、10億円~50億円未満 14.4%と続いています。1,000億円以上は 0.5%となっています。

(7) 省エネ法に基づく特定事業者の指定

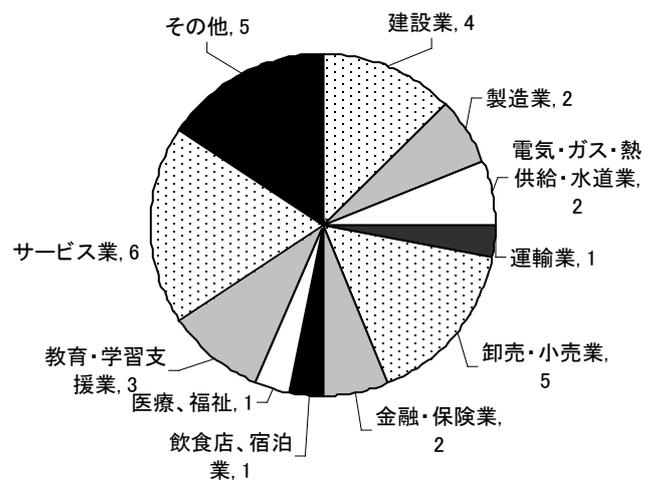
(SA) N = 222



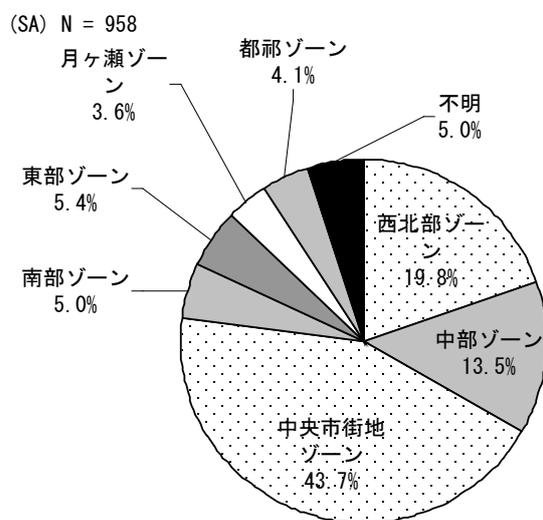
省エネ法に基づく特定事業者の指定は、「指定を受けていない」が 77.9%を占めています。「指定を受けている」は 14.4% (32件) です。

指定を受けている 32件を業種別に見ると、多い順にサービス業 6件、卸売・小売業 5件、建設業 4件となっています。

■業種別特定事業者



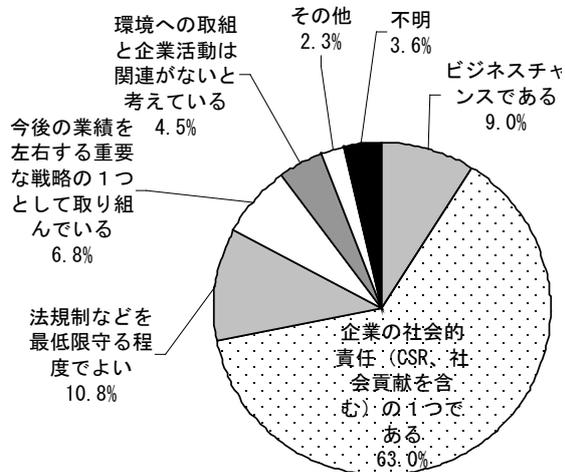
問2 貴事業所の所在地がある小学校区が含まれるゾーンの番号に○をつけてください。



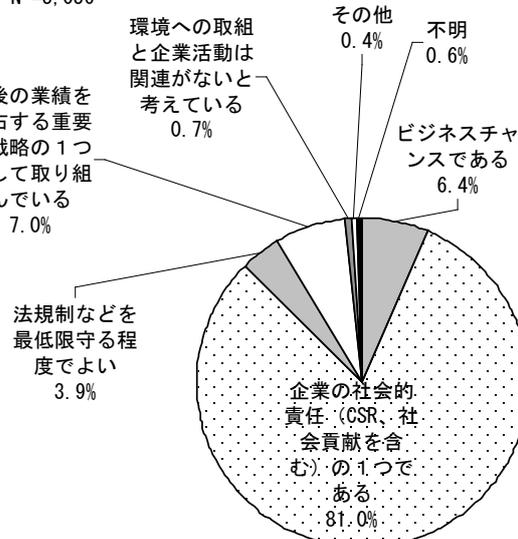
事業所所在地のゾーンは、上位3位が中央市街地ゾーン 40.9%、西北部ゾーン 19.4%、中部ゾーン 12.6%で、最も低いのは月ヶ瀬ゾーンの3.6%です。

問3 貴事業所では、企業の環境への取組と企業活動のあり方についておたずねします。貴事業所のお考えに最も近いものは次のうちのどれですか。(1つに○)

(SA) N = 222



(SA) N = 3,036



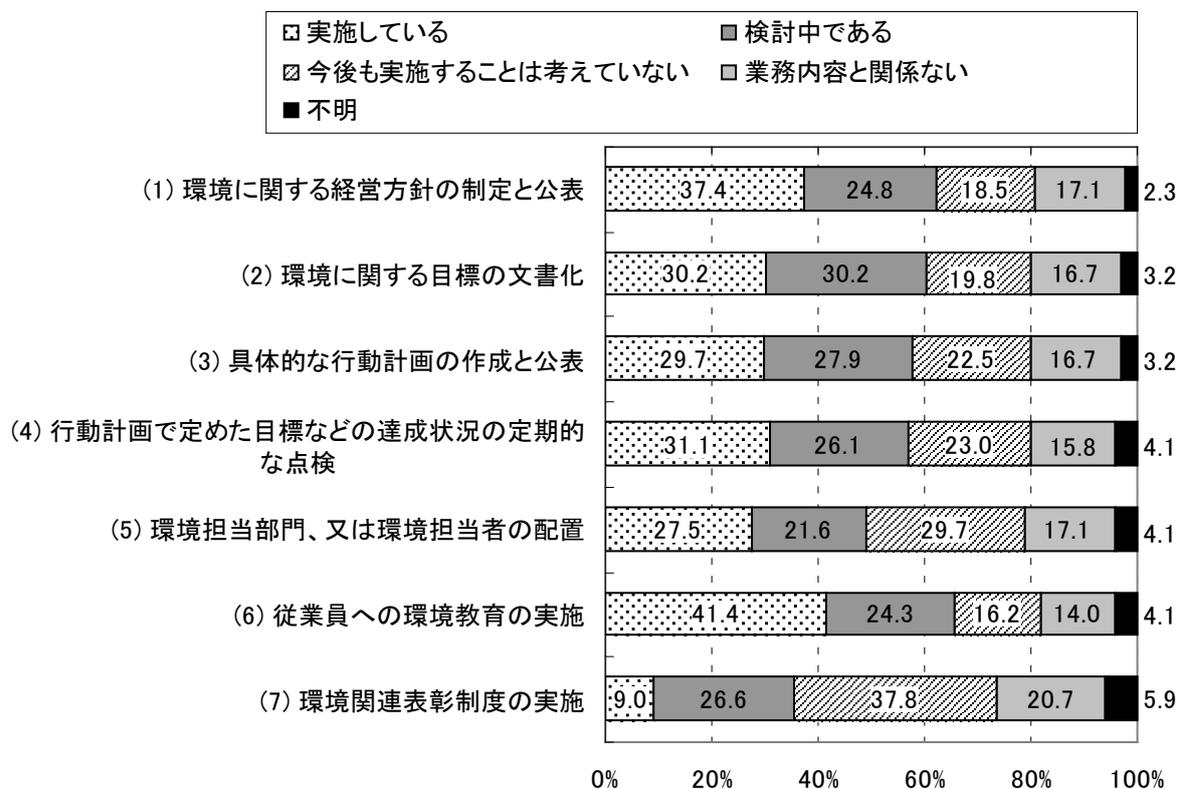
平成22年度環境にやさしい企業行動調査結果(環境省)

問3 企業の環境への取組と企業活動のあり方についての「その他」意見	件数
本来は個人(住民)と行政の責任である。企業には法人としての住民に準じた一定の配慮義務があろう	1
環境への取組と企業活動は関連があると考えている	1

環境への取組と企業活動のあり方については、「企業の社会的責任(CSR、社会貢献を含む)の1つである」と回答した企業が最も多く63.0%、次いで「法規制などを最低限守る程度でよい」10.8%、「ビジネスチャンスである」9.0%、「今後の業績を左右する重要な戦略の1つとして取り組んでいる」6.8%と続いています。

一方、環境省が毎年実施している「環境にやさしい企業行動調査結果」の平成22年度調査結果では、「社会的責任(CSR、社会貢献を含む)の1つである」と回答した企業が最も多く81.0%、次いで「今後の業績を左右する重要な戦略の1つとして取り組んでいる」7.0%、「ビジネスチャンスである」6.4%、「法規制などを最低限守る程度でよい」3.9%の順となっています。

問4 貴事業所の環境に関する取組状況についておたずねします。(それぞれ1つに○)



環境に関する取組状況について、「実施している」「検討中である」「今後も実施することは考えていない」のそれぞれについて、割合の高い上位3位は以下の通りです。

「実施している」の上位3位まで	「検討中である」の上位3位まで	「今後も実施することは考えていない」の上位3位まで
(6) 従業員への環境教育の実施 (41.4%)	(2) 環境に関する目標の文書化 (30.2%)	(7) 環境関連表彰制度の実施 (37.8%)
(1) 環境に関する経営方針の制定と公表 (37.4%)	(3) 具体的な行動計画の作成と公表 (27.9%)	(5) 環境担当部門、又は環境担当者の配置 (29.7%)
(4) 行動計画で定めた目標などの達成状況の定期的な点検 (31.1%)	(7) 環境関連表彰制度の実施 (26.6%)	(4) 行動計画で定めた目標などの達成状況の定期的な点検 (23.0%)

業種別の「環境に関する取組状況」(表-1 参照)の全体的な傾向を見るために、7項目のうち、各項目で最も高い割合を示している取り組み状況が5項目以上同じである場合を見ると、「金融・保険業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「製造業」「建設業」では「実施している」、「卸売・小売業」「運輸業」「飲食店、宿泊業」「不動産業」では「検討中である」、「鉱業」では「今後も実施することは考えていない」、「農林漁業」「医療、福祉」では「業務内容と関係ない」という傾向が見られます。

また、「実施している」「検討中である」としている業種においても、「今後も実施することは考えていない」項目として「(5) 環境担当部門、又は環境担当者の配置」、「(7) 環境関連表彰制度の実施」が多い傾向が見られます。

■表-1 業種別「環境に関する取組状況」

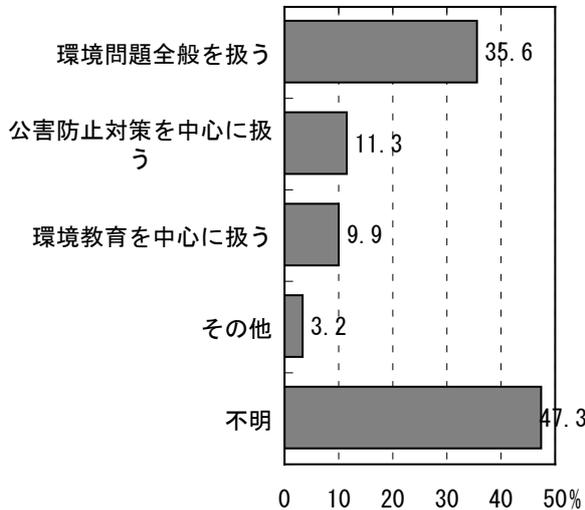
単位：％

件数（「不明」を除く）	218	4	2	37	21	8	2	3	35	4	3	5	30	5	45	14	
項目	全体	農林漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育・学習支援業	サービス業	その他	
① 方針の制定と公表 環境に関する経営	実施している	37.4	25.0	50.0	48.6	57.1	62.5	50.0	33.3	37.1	100.0	33.3	20.0	3.3	-	35.6	42.9
	検討中である	24.8	-	-	24.3	19.0	25.0	-	66.7	31.4	-	33.3	60.0	16.7	20.0	33.3	14.3
	今後も実施することは考えていない	18.5	25.0	50.0	18.9	23.8	-	-	-	8.6	-	33.3	-	33.3	40.0	17.8	21.4
	業務内容と関係ない	17.1	50.0	-	5.4	-	12.5	50.0	-	17.1	-	-	20.0	43.3	40.0	11.1	21.4
② 環境に関する目標の文書化	実施している	30.2	-	50.0	37.8	57.1	50.0	50.0	-	25.7	100.0	-	-	3.3	60.0	24.4	42.9
	検討中である	30.2	25.0	-	35.1	23.8	37.5	-	100.0	34.3	-	66.7	60.0	16.7	-	40.0	14.3
	今後も実施することは考えていない	19.8	25.0	50.0	16.2	19.0	-	-	-	17.1	-	33.3	-	36.7	20.0	17.8	28.6
	業務内容と関係ない	16.7	50.0	-	5.4	-	12.5	50.0	-	17.1	-	-	40.0	40.0	20.0	13.3	14.3
③ 具体的な行動計画の作成と公表	実施している	29.7	-	-	40.5	52.4	50.0	50.0	-	25.7	75.0	-	-	3.3	40.0	28.9	42.9
	検討中である	27.9	25.0	-	27.0	23.8	37.5	-	100.0	34.3	25.0	66.7	60.0	13.3	20.0	33.3	14.3
	今後も実施することは考えていない	22.5	25.0	50.0	24.3	23.8	-	-	-	17.1	-	33.3	-	40.0	20.0	20.0	28.6
	業務内容と関係ない	16.7	50.0	50.0	2.7	-	12.5	50.0	-	17.1	-	-	40.0	40.0	20.0	13.3	14.3
④ 目標などの定期的な達成状況の点検	実施している	31.1	-	-	48.6	52.4	50.0	50.0	-	28.6	100.0	-	-	6.7	20.0	24.4	42.9
	検討中である	26.1	25.0	50.0	21.6	23.8	25.0	-	66.7	34.3	-	66.7	60.0	10.0	40.0	33.3	14.3
	今後も実施することは考えていない	23.0	25.0	50.0	24.3	23.8	-	-	-	14.3	-	33.3	-	40.0	20.0	24.4	28.6
	業務内容と関係ない	15.8	50.0	-	2.7	-	12.5	50.0	-	17.1	-	-	40.0	36.7	20.0	13.3	14.3
⑤ 環境担当部門の配置	実施している	27.5	25.0	-	32.4	52.4	37.5	50.0	-	22.9	50.0	-	-	6.7	60.0	22.2	50.0
	検討中である	21.6	-	-	24.3	28.6	25.0	-	66.7	34.3	25.0	66.7	20.0	10.0	-	22.2	-
	今後も実施することは考えていない	29.7	25.0	100.0	37.8	19.0	12.5	-	-	17.1	-	33.3	40.0	40.0	20.0	35.6	35.7
	業務内容と関係ない	17.1	50.0	-	2.7	-	12.5	50.0	-	20.0	-	-	40.0	40.0	20.0	15.6	14.3
⑥ 従業員への環境教育の実施	実施している	41.4	25.0	50.0	48.6	61.9	62.5	50.0	-	37.1	100.0	33.3	20.0	20.0	40.0	31.1	64.3
	検討中である	24.3	-	50.0	29.7	19.0	12.5	-	66.7	25.7	-	33.3	40.0	20.0	20.0	35.6	-
	今後も実施することは考えていない	16.2	25.0	-	16.2	19.0	-	-	-	11.4	-	33.3	20.0	23.3	20.0	17.8	21.4
	業務内容と関係ない	14.0	50.0	-	2.7	-	12.5	50.0	-	17.1	-	-	20.0	33.3	20.0	11.1	14.3
⑦ 環境関連表彰制度の実施	実施している	9.0	25.0	-	2.7	19.0	37.5	50.0	-	8.6	-	-	-	-	-	11.1	14.3
	検討中である	26.6	-	-	35.1	42.9	25.0	-	66.7	42.9	75.0	66.7	20.0	6.7	-	22.2	-
	今後も実施することは考えていない	37.8	25.0	100.0	48.6	38.1	12.5	-	-	20.0	-	33.3	40.0	43.3	60.0	40.0	57.1
	業務内容と関係ない	20.7	50.0	-	8.1	-	12.5	50.0	-	22.9	-	-	40.0	43.3	40.0	20.0	21.4

※各業種とも「不明」を除いているため、合計が100%とはならない。

問5 貴事業所の環境担当部門、又は環境担当者の行う業務はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

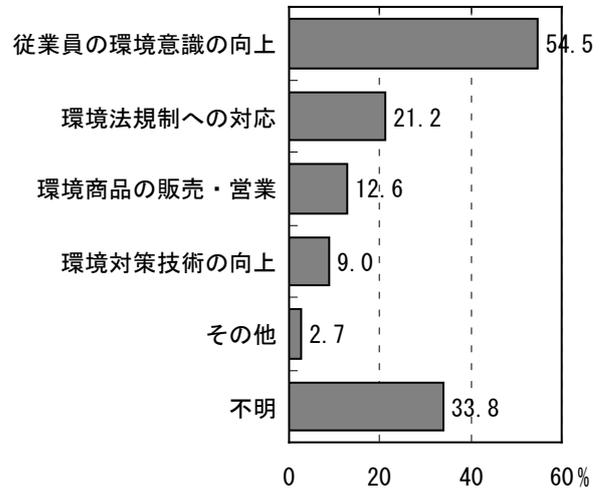
(MA) N = 222



問5 その他 ()内記述	件数
ISO関係	2
環境に関する法律の順守推進	1
弊社顧問の本職が環境問題に対する事業を行っている	1

問6 貴事業所で行っている環境教育の内容はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

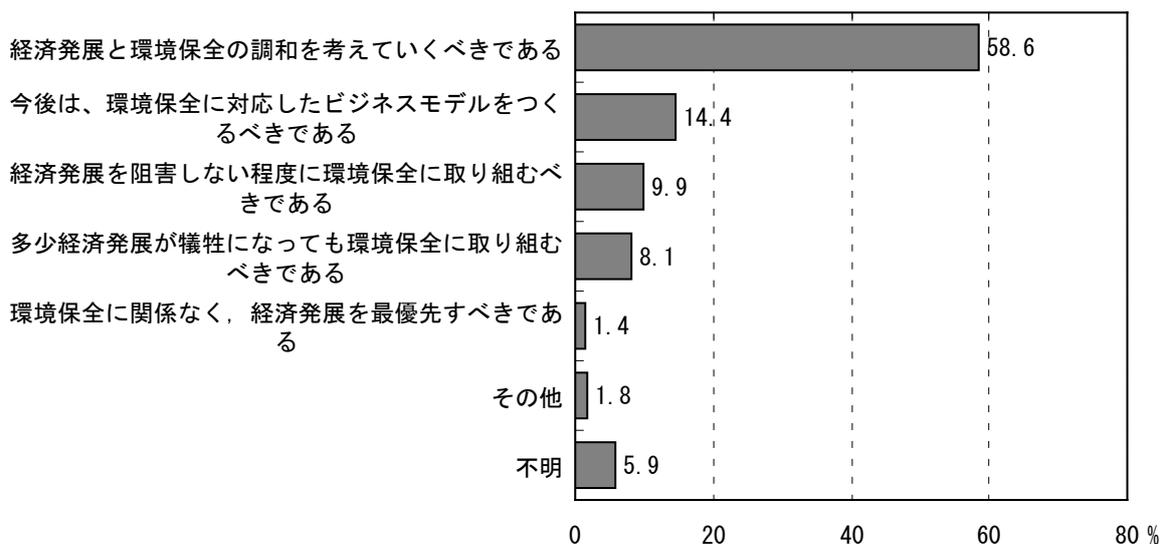
(MA) N = 222



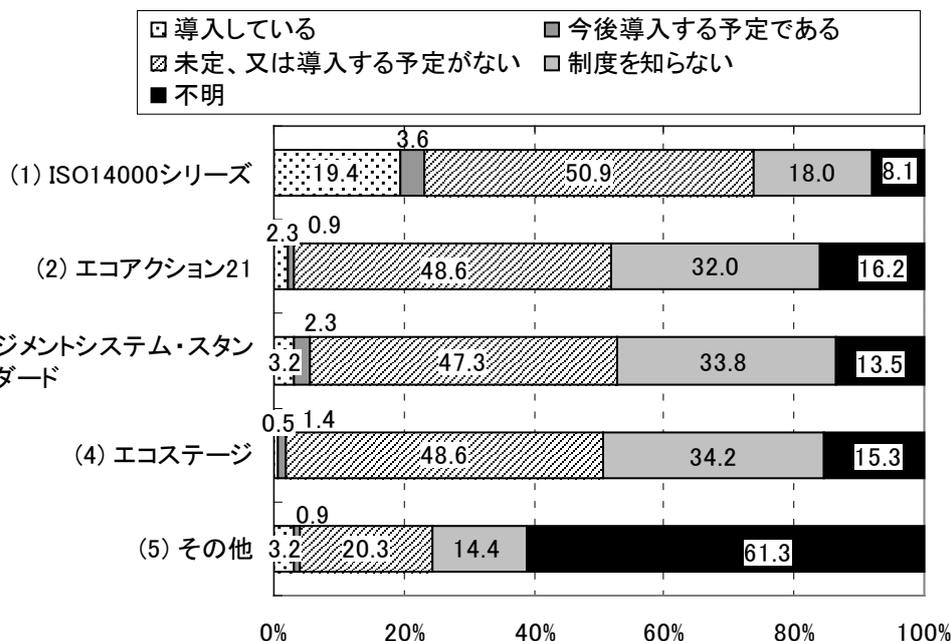
問6 その他 ()内記述	件数
I S O	1
サステイナブルデザインの努力・リユースORリニューアルの活用	1
製造時のロス削減する改善活動実行	1
事故緊急事態訓練等も実施している	1
廃棄処理の徹底、禁煙	1

問7 「経済発展」と「環境保全」の関係について、貴事業所のお考えに近いものは次のうちのどれですか。(1つに○)

(MA) N = 222



問8 貴事業所では環境管理のための仕組み（環境マネジメントシステム）を導入していますか。（あてはまるものに○）



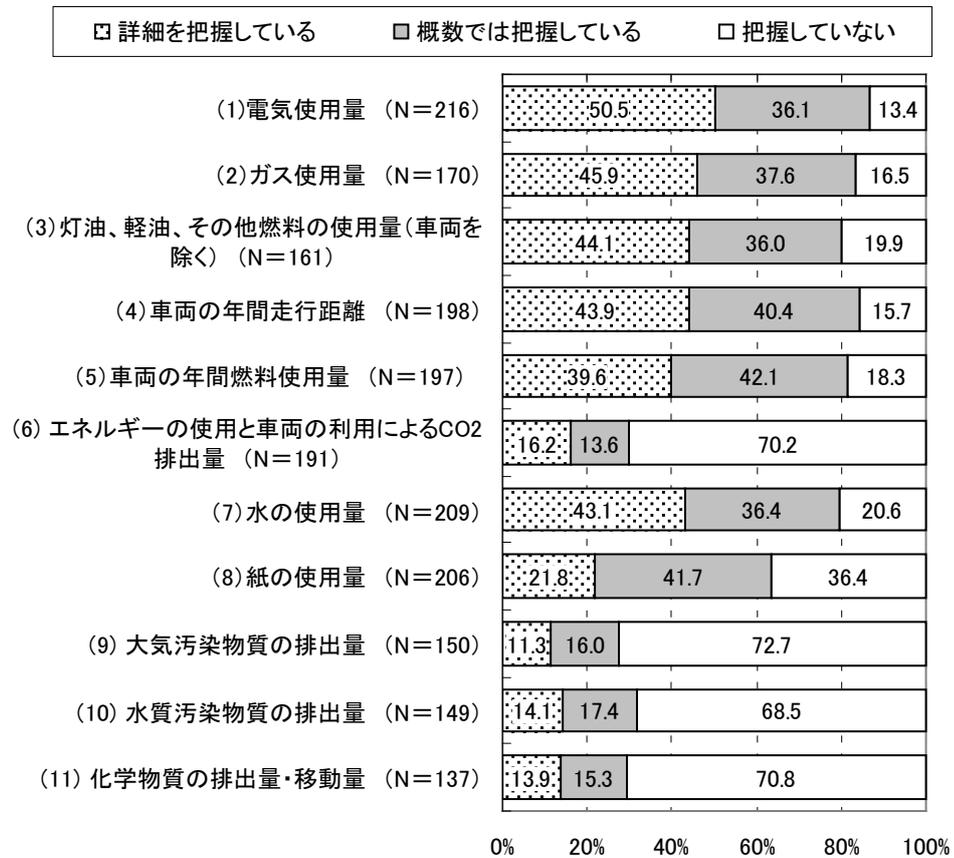
問8 環境管理のための仕組みの「その他」	件数
①野村グループの環境方針の一般公開	1
②その他（全社的とりくみ） ・温室効果ガス排出量（電力使用量の削減、営業用自動車の低燃費車への切り替え率67%） ・グリーン購入（事務用品の使用におけるグリーン購入率75%）	
チャレンジキャンペーンに参加	
医療機能評価	1
グリーン経営認証	2

■業種別の取得状況

(単位:件)

	全体	(1) ISO14000シリーズ			(2) エコアクション21			(3) KES・環境マネジメントシステム・スタンダード			(4) エコステージ			(5) その他		
		導入している	今後導入する予定である	計	導入している	今後導入する予定である	計	導入している	今後導入する予定である	計	導入している	今後導入する予定である	計	導入している	今後導入する予定である	計
全体	222	43	8	51	5	2	7	7	5	12	1	3	4	7	2	9
農林漁業	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鉱業	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
建設業	37	11	3	14	1	-	1	1	1	2	-	-	-	-	-	-
製造業	21	9	1	10	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1
電気・ガス・熱供給・水道業	8	2	1	3	-	1	1	1	-	1	1	1	-	-	-	-
情報通信業	2	1	-	1	1	-	1	-	1	1	-	1	1	-	-	-
運輸業	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
卸売・小売業	35	4	1	5	-	1	1	1	1	2	-	1	1	2	-	2
金融・保険業	4	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不動産業	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飲食店、宿泊業	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
医療、福祉	30	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	1
教育・学習支援業	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
複合サービス業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス業	45	9	-	9	2	-	2	3	1	4	1	-	1	1	2	3
その他	14	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	4	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問9 貴事業所では、環境負荷量をはじめとする以下の数値について把握していますか。
(それぞれ1つに○)



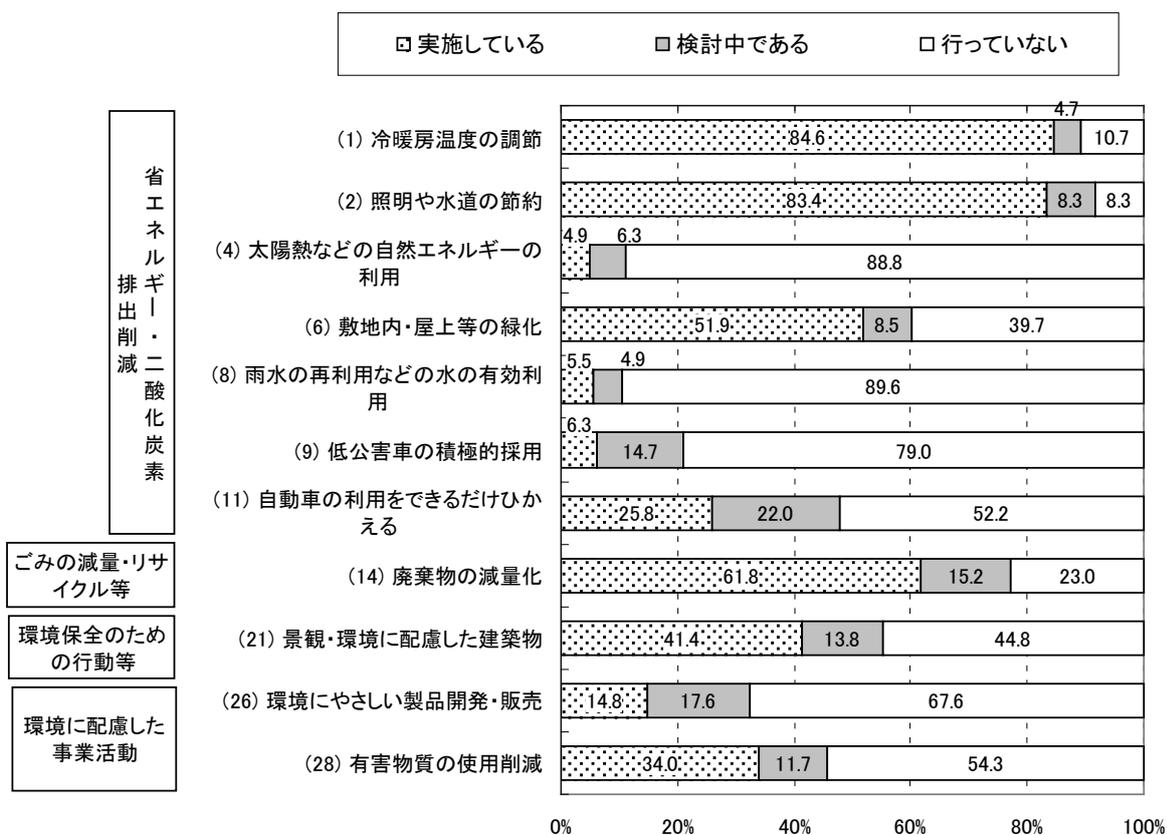
(注)「業務内容と関係がない」と回答した事業所及び「不明」を除いて集計

問 10 貴事業所の日常業務などにおける環境保全の取組についておたずねします。
(それぞれ1つに○)



(注)「業務内容と関係ない」と回答した事業所及び「不明」を除いて集計

■前回調査（平成9年実施）結果



※前回調査の項目番号は、今回調査の項目番号に対応している。

○今回の調査結果

順位	「実施している」のランキング	順位	「検討中である」のランキング	順位	「今後とも実施することは考えていない」のランキング
1	(2) 照明や水道の節約 80.6%	1	(9) 省エネルギー型の設備・低公害車等の導入 40.6%	1	(8) 雨水の利用や、一度使った水の再利用 69.0%
2	(18) 事業所内の資源ごみの分別収集 80.2%	2	(27) 再利用することを考慮した製品の製造・販売 35.0%	2	(5) コージェネレーションなどの省エネルギーシステム導入 68.2%
3	(1) 事業所内冷暖房の設定温度の調節 78.5%	3	(14) 事業所内ごみの発生を減らす取組 33.2%	3	(29) ESCO事業の導入 67.4%
4	(16) 詰め替え商品の使用 71.6%	4	(30) 生態系や自然環境に配慮した事業活動の実施 33.0%	4	(6) 施設敷地内や建物の壁面・屋上の緑化 64.7%
5	(22) 事業所周辺の環境に対する苦情などの対応 65.2%	5	(25) 環境に関するキャンペーンの実施 31.8%	5	(4) 太陽光や風力発電などの自然エネルギーの活用 64.3%
10	(14) 事業所内ごみの発生を減らす取組 52.3%	7	(26) 環境に配慮した製品の研究や開発及び販売 30.0%	12	(28) 薬品・化学物質の使用抑制 40.2%
13	(21) 街並み景観に配慮した事業所建物の外観や屋外広告物・看板等 49.1%	19	(21) 街並み景観に配慮した事業所建物の外観や屋外広告物・看板等 25.7%	14	(9) 省エネルギー型の設備・低公害車等の導入 34.9%
27	(6) 施設敷地内や建物の壁面・屋上の緑化 13.5%	26	(11) マイカー通勤の自粛 17.3%	19	(26) 環境に配慮した製品の研究や開発及び販売 25.5%

※網掛け部分は前回調査にはない新規項目を示す。

○前回調査（平成9年実施）の調査結果

順位	「実施している」のランキング		順位	「検討中である」のランキング		順位	「行っていない」のランキング	
1	(1) 冷暖房温度の調節	84.6%	1	(11) 自動車の利用をできるだけひかえる	22.0%	1	(8) 雨水の再利用などの水の有効利用	89.6%
2	(2) 照明や水道の節約	83.4%	2	(26) 環境にやさしい製品開発・販売	17.6%	2	(4) 太陽熱などの自然エネルギーの利用	88.8%
3	(14) 廃棄物の減量化	61.8%	3	(14) 廃棄物の減量化	15.2%	3	(9) 低公害車の積極的採用	79.0%
4	(6) 敷地内・屋上等の緑化	51.9%	4	(9) 低公害車の積極的採用	14.7%	4	(26) 環境にやさしい製品開発・販売	67.6%
5	(21) 景観・環境に配慮した建築物	41.4%	5	(21) 景観・環境に配慮した建築物	13.8%	5	(28) 有害物質の使用削減	54.3%
						6	(6) 敷地内・屋上等の緑化	39.7%

※前回調査の項目番号は、今回調査の項目番号に対応している。

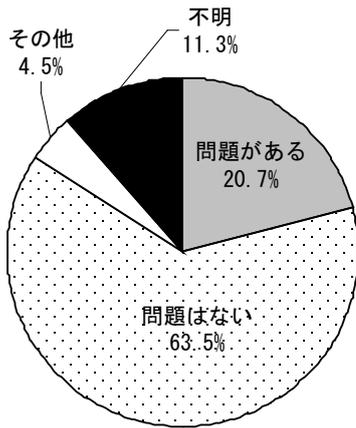
■前回調査（平成9年度実施）との比較

前回調査から10年以上が経過し、事業所の環境に対する意識や日常業務における取組ほどの程度変化しているのかを知るために、両調査における同じ項目（表現は多少違って趣旨が似通っているものを含む）の結果を比較しました。

- ・両調査における上位ランキングを見ると、「実施している」では、身近に取り組める「(2) 照明や水道の節約」や「(1) 事業所内冷暖房の設定温度の調節」は、両調査ともに上位を占めています。
- ・前回調査にはなかった項目（上記表の網掛け部分）が、「実施している」「検討中である」「行っていない」のいずれも上位5位までに含まれています。
- ・前回調査では「実施している」が51.9%でランキング4位であった「(6) 敷地内・屋上等の緑化（今回「施設敷地内や建物の壁面・屋上の緑化）」は、今回調査では13.5%と38.4ポイントも下がり、順位を27位まで下げています。
- ・「検討中である」のランキングでは、今回「(9) 「省エネルギー型の設備・低公害車等の導入（前は「低公害車の積極的採用）」が25.9ポイントの上昇で1位になっています。また、「(14) 事業所内ごみの発生を減らす取組（前回は「廃棄物の減量化）」は18.0ポイント、「(26) 環境に配慮した製品の研究や開発及び販売（前回は「環境にやさしい製品開発・販売）」は12.4ポイント、「(21) 街並み景観に配慮した事業所建物の外観や屋外広告物・看板等（前回は「景観・環境に配慮した建築物）」は11.9ポイント、それぞれ上昇しています。
- ・「今後とも実施することは考えていない」では、前回調査の上位5位までの項目が全て今回調査ではポイントを下げている、これは即ち、今後、実施する可能性が高まっているものと考えられます。

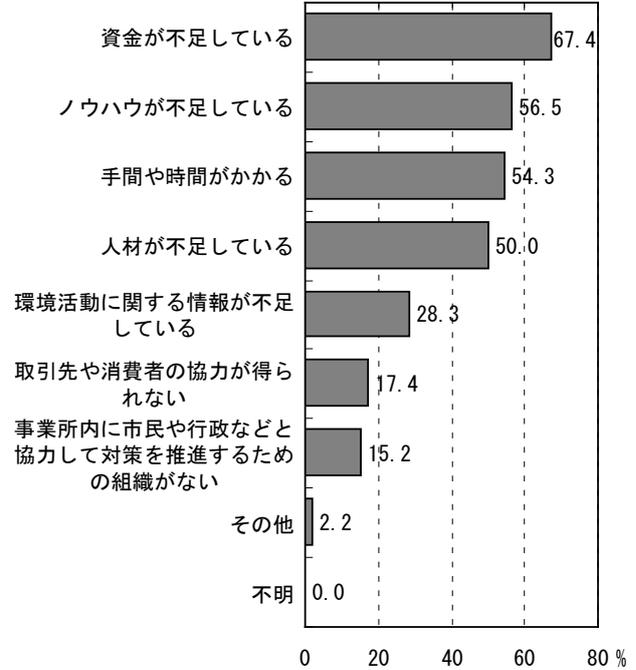
問11 貴事業所が問10に示すような環境保全のための取組を進める上で、問題となっていることはありますか。
(1つに○)

(SA) N = 222



問11-1) 問11で「1. 問題がある」と答えた事業所のみお答え下さい。
貴事業所が環境保全の取組を進めるうえで、問題となっていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

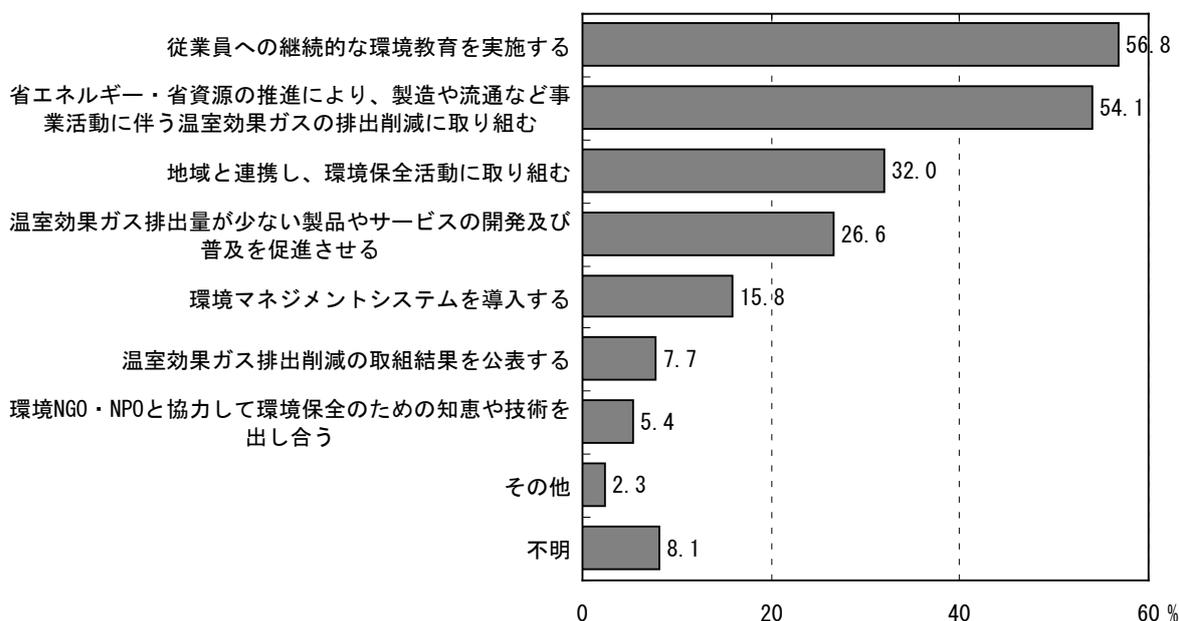
(MA) N = 46



問11-1 その他 ()内記述	件数
東京に本部があり当事業所は貸ビルである	1
フランチャイズチェーンの為、チェーン全体での取り決めが必要になる	1

問 12 環境保全のために企業ができる取組は何だと考えますか。(〇は3つまで)

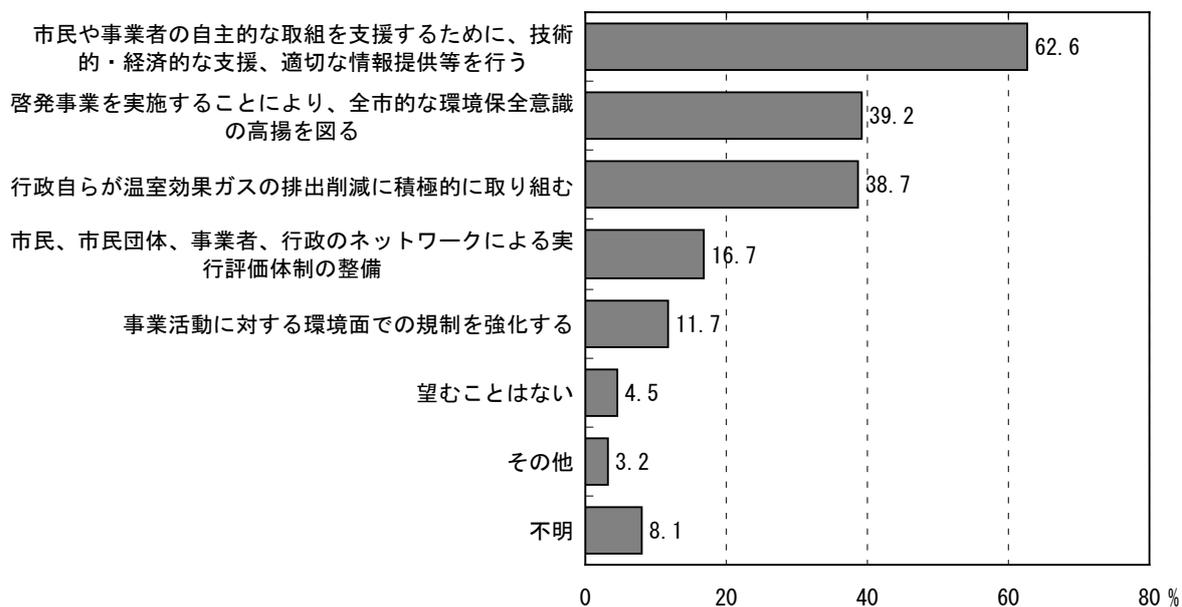
(MA) N = 222



問 12 環境保全のために企業ができる取組についての「その他」意見	件数
事業所内で光熱費等の節約に取り組む	1
企業活動の停止	1
利益を得るような組織が必要	1

問 13 環境保全対策について行政（奈良市）に望むことは何ですか。(〇は3つまで)

(MA) N = 222



問 13 環境保全対策について行政（奈良市）に望むことについての「その他」意見	件数
近畿連合への加盟	1
新たな施設等に税金を使わない事	1
大都市同様の分別ゴミの中止	1
環境対策という名目で、企業活動を減退させるような規制条令への取組はしないでもらいたい	1
行政は何も行わない	1

問 14 環境をよくするためのアイデアやご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

23 件（アンケート調査票数）のアイデアや意見・要望等がありました。

意見の分類	主な内容
ごみについて	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の増大 ・ごみ箱や灰皿の設置を地域全体の取組として ・人口減少社会とごみ処理施設のあり方について
CO ₂ 削減について	<ul style="list-style-type: none"> ・市がEV車の積極的導入 ・CO₂排出量の「見える化」 ・市がCO₂削減効果の高い設備を積極的に導入 ・低燃費、CO₂排出減に取り組むモデルタウンをつくる ・道路網の整備（渋滞緩和、郊外循環道路の設置、拡幅など）によるCO₂削減
企業活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・自社の環境活動によるCO₂削減量などをホームページや会社の前に提示して一般に知らせる ・奈良市アダプトプログラム推進事業に参加し、地域の活動に協力 ・環境改善のボランティア活動などがあれば参加したい
行政に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・市が環境に関する数値（エネルギー使用量等）を定量的に提示 ・企業に対する情報提供（特に環境法規制面）の充実、ホームページの充実 ・市としてエココンテストなどを実施（各企業の取組を発表する場の提供） ・市が中心になって企業に対する環境コンクールを定期的で開催し表彰する ・環境測定のための補助金を出してほしい（活動援助金制度） ・地域の子どもたちを中心にした環境体験キャンプや遊びを夏休みに開く（親子教室でも可） ・市が率先してイドリングストップを ・市民の意識改革のための啓発活動 ・歴史都市保全へ市の取組の強化 ・条例による罰則強化 ・マイカー乗り入れ禁止範囲の拡大 ・町全体及び主要道路の緑地率を決めて、樹木や街路樹を保全する方向に舵を切るべき ・行政主導による工業団地の推進及び当該団地の総括的環境対策など ・各企業に根付くような美化活動、5S活動の啓蒙PR、推進を行政より発信（具体的な取組事例等の紹介を広報誌等で取り上げる、環境取組情報をPRするなど）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の取組を参考に、市民の身近な分野から取り組む（例）無料のレンタルサイクル（シェアリング料は別）など ・本来の業務を高める事が一番のエコだと思う ・貴政策課のみでなく奈良市全体で市職員一体となり実施していけばと思う